



Management Software  
**Control Center**

取扱説明書  
(Rev 7.0.30)

---

# Control Center

## Installation and Operation Manual

---

このユーザーガイドではコントロールセンターの使用方法を説明しています。

製品をご使用になる前にこのユーザーガイドをご確認下さい。

このユーザーガイドとソフトウェア、本書で説明されているハードウェアは著作権法によって保護されています。

著作権法の範囲内での通常の使用のためのコピーを除き、WEBGATEの許可なく、このマニュアルの一部または全部をコピーする試みは禁止されます。

### 製品の保証と責任の制限

製造元はこの製品の販売について責任を負うものではなく、製造者の代わりに第三者に権限を委譲しないでください。この文書は通常の情報のためにのみ使用されており、この情報の使用に伴うリスクはユーザーに帰属し、このマニュアルの内容はすべて保証されません。

このマニュアルの内容は、ソフトウェアのアップグレードおよび製品設計に基づいて異なる場合があります、仕様はユーザーに予告なしに変更される可能性があります。

---

# 目次

製品概要	4ページ
基本情報	4ページ
主な機能	4ページ
インストール	5ページ
システム要件	5ページ
インストール前の注意	6ページ
インストールプログラム	7ページ
はじめに	10ページ
プログラムの実行/ログイン	10ページ
ユニット登録	10ページ
ライブビューアー	14ページ
画面の構造と機能の名前	14ページ
サイトモード	18ページ
ビューセットモード	27ページ
マップモード	30ページ
再生ビューアー	36ページ
画面構成と機能名	36ページ
ユニット接続とファイルオープン	40ページ
基本のコントロール	42ページ
検索	46ページ
タイムライン	49ページ
設定ツール	54ページ
画面構成	54ページ
ユニットコネクション	55ページ
基本機能	56ページ
ツール	59ページ
スケジュールバックアップ	59ページ
ミニプレーヤー	63ページ
DVR HDDマネージャ	64ページ
Specification	65ページ

---

## 製品概要

### 基本情報

Control Centerは、遠隔地に設置された最大1,024台のユニットを制御できるソフトウェアを管理しています。

記録された画像のリアルタイムモニタリング、検索、バックアップ、設定などの機能を提供します。また、64分割画面のデュアルモニタをサポートし、同時に最大128チャンネルをモニタすることができます。指定されたモーションエリアで行うことができ、テキスト検索も可能です。

マルチチャンネルビデオは、マルチストリーミングを使用して最適に監視することができます。分割された画面に合わせて自動的にストリームを選択することができます。

この機能は、1つの画面モードでHDストリーム（1080p、720p）を表示し、16分割以上の分割画面モードでSDストリーム（D1、Half、CIF）を表示して、不要なネットワークリソースの消費を減らし、CPUリソース。この機能は自動的に機能するので、画像を直接転送するか待機するかをユーザーが設定する必要はありません。

この技術は、分散接続管理に適用され、CPUやネットワークの負荷が少なく、多くのユニットのリアルタイム管理が可能です。

1080p/30fps以上の8チャンネル以上の映像は、新しく搭載された高性能ディスプレイエンジンを使用してスムーズにモニターすることができ、他のプログラムはPCの性能を一時的に欠いているため、システムが復元されたとき、システムは常に自動的に元のフレームレートの監視に戻りました。

登録されたユニットで発生した状況をリアルタイムで通知し、対処できるいくつかの方法があります。また、発生したイベントを保存および取得する機能もあり、イベントが発生すると関連するビデオをポップアップ表示します。

コントロールセンターはビューセットとマップのグループ化機能を提供し、効率的かつ便利にユニット数を管理します。

ビューセット機能は、複数のユニットから新しい名前のチャンネルを選択させたい場合に使用します。

マップ機能では、カメラ、センサー、MIC、およびリレーをマップに配置してユニットを管理し、各デバイスアイコンを操作して画像と制御を表示することができます。

また、デュアルモニターにも対応しているため、同時にユニットを監視、制御することができます。また、イベント、アラームログなどのリアルタイムでユニットステータスを確認することもできます。

### 主な機能

#### Full HDビデオサポート

この製品は、HD 1080p（1920x1080）、720p（1280x720）、nHD（640x360）の高画質画像のライブ監視と再生/バックアップとともに、SD CIF / HALF / D1の通常の画像をサポートします。また、RTSPプロトコルをサポートしているカメラでのライブ監視もサポートしています。

- ✓ ライブリアルタイムモニタリングで各チャンネル30fpsで最大8ch（1080p）をサポート
- ✓ ライブリアルタイムモニタリングで各チャンネル30fpsでnHDで最大32chをサポート

## ライブモニタリング

各チャンネルごとに遅延なく、さまざまなモニタリング画面と高品質の画像表示をサポートします。

- ✓ 豊富な分割画面に対応 “1/4/9/16/25/36/49/69”
- ✓ フルスクリーンモード
- ✓ マウスのドラッグ&ドロップでお好みの位置に追加することが出来ます。
- ✓ グループビューセットの管理機能
- ✓ レイヤーマップ機能
- ✓ 自動配列、イベントポップアップ
- ✓ リアルタイム音声出力
- ✓ マイクサポート

## 再生

便利な検索と再生機能

- ✓ 16分割画面を同時再生
- ✓ フルスクリーンモード
- ✓ カレンダー/タイムライン/テキスト/スマート/サムネイル/ブックマークで検索
- ✓ 時刻、日付、チャンネル別の再生、イベント画像別再生
- ✓ さまざまな再生スピードをサポート(最大64倍)
- ✓ ウォーターマークチェックをサポート
- ✓ チャンネル別に映像調整が可能
- ✓ デジタルズーム・イン/アウト
- ✓ DVRのHDDをPCに直接接続して再生/検索/バックアップする

## 録音とバックアップ

画像記録またはリアルタイムビデオ監視、スケジュールおよびリアルタイムバックアップユニットの記録データを保存する機能をサポートします。

- ✓ モニタの画像用のクイックレコーディングとイメージセーブをサポート
- ✓ ユニットの録画画像のリアルタイムバックアップ
- ✓ スケジュールバックアップによる自動バックアップ
- ✓ イベントログの記録/検索/バックアップ

## その他

- ✓ IPカメラ、SD DVR、HD DVR、NVR、WinDVrS、WinRDSであるすべてのWEBGATEモデルをサポート
- ✓ RTSPストリーミングのサポート
- ✓ 最大1024台が接続可能
- ✓ ユーザー権利、ユーザー操作制限、およびユーザーログインをサポートする
- ✓ ユニットの設定情報の保存をサポート
- ✓ 設定情報のインポート/エクスポート
- ✓ キーボードのホットキーとジョイスティックをサポート
- ✓ 再生用のジョグ/シャトルデバイスをサポートします

## インストール

## システム要件

コントロールセンターの実行に推奨されるシステム要件

アイテム	推奨
CPU	Core i5 3.0GHz
Main Memory	8GB
Video Memory	512MB 以上
Display	1024 MB PCI-EグラフィックカードのサポートAGP Accelerate (AMD Radeon HD 7000シリーズ以上)
BUS	PCI-E 16X以上をサポート
Network	100/1000 Ethernet NIC

OS	Windows 7(x64) / Windows 8(x64) / Windows 10(x64)
Browser	Internet Explorer 8 以上
Others	DirectX 9.0 以上

## インストール前の注意

コントロールセンターは、Microsoft Windows 7 (x64) / Windows 8 (x64) / Windows 10 (x64) オペレーティングシステム用に最適化されています。

ウイルスや重大なセキュリティコードを保護できるように、Windows Updateとウイルス検出プログラムをインストールすることを強くお勧めします

PCのリソースは、コントロールセンターの登録されたデバイスによって発生した大量のイベントのために減少します。PCのパフォーマンスを向上させるために、不要なイベントが発生しないようにユニットの設定を変更する必要があります。

Microsoftから提供されているビデオドライバを使用している場合、ユーザーの画面の表示が大きくなり、効率が低下する可能性があるため、DirectXを使用しないでください。また、ビデオカードの製造元から提供されている最新のドライバにアップデートしてください。

### <注意>

1. 書き込みできないフォルダへのパスを設定する権限がないPCユーザー。
2. 2人以上のユーザーが1つのシステムから移行してアカウントからプログラムを実行した場合、正常に動作しないことがあります。プログラムのインストールには、1つのアカウントのみを使用することをお勧めします。
3. v3.x以下のバージョンからアップグレードすると、サブログの保存方法が変更されます。アップグレード後に初めてログオンすると、検索に時間がかかります。
4. PCで使用されているプログラムとの競合を避けるため、実行中のプログラムをすべて終了し、インストールを続行するようにしてください。
5. WEBGATEが提供するプログラムまたはWebビューアーを終了し、インストールを続行する必要があります。

# インストールプログラム

## インストール

インストールプログラムを実行して、コントロールセンターはPCにインストールします。

- 1) Control Center Setup CDまたはPCからControl Center x.x.x Setup.exeファイルを実行します。
- 2) インストールする言語を選択し、[OK]ボタンをクリックします。



- 3) [同意]ボタンをクリックしてインストールを続行します。



- 4) 追加したいプログラムがあれば選択し[次へ]をクリックします。



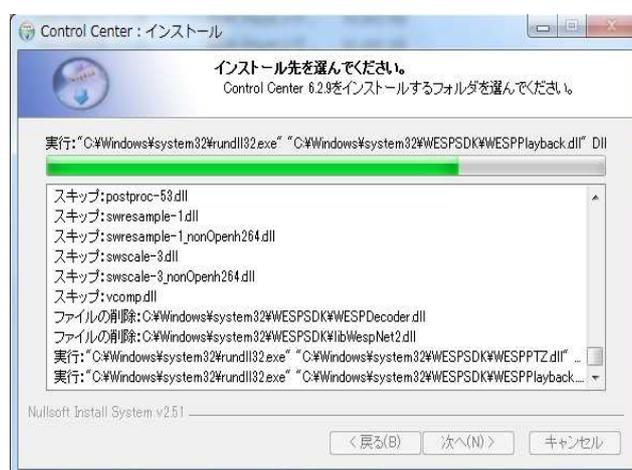
- 5) インストール先のフォルダーを選択し[インストール]ボタンをクリックします。

<注>

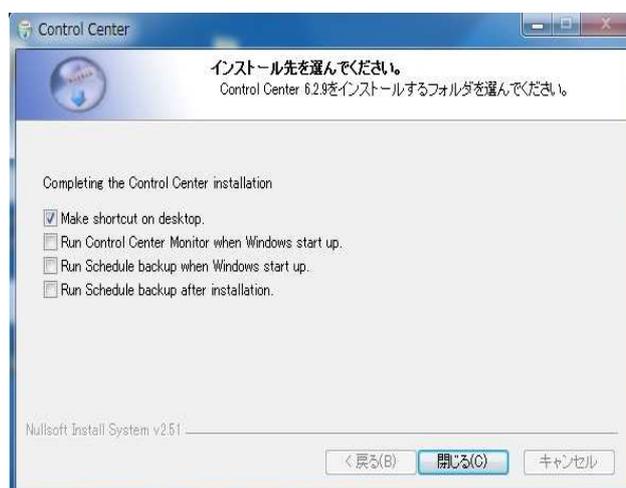
デフォルトのフォルダにインストールすることをお勧めします。



- 6) インストールが完了したら[次へ]をクリックします。



- 7) 追加するオプションを選んで[閉じる]をクリックし、インストールは完了です。



## アップグレード

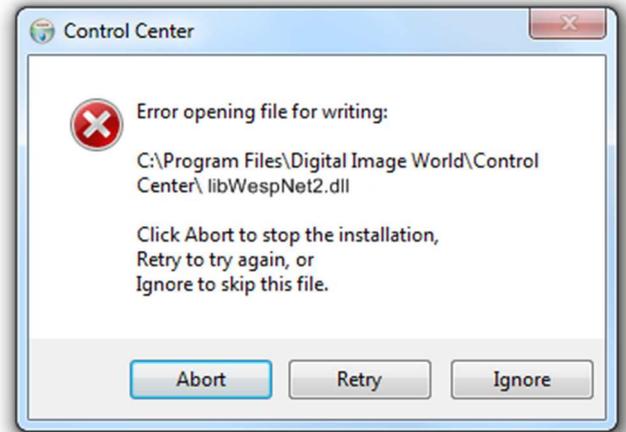
コントロールセンターがすでにPCにインストールされている場合は、プログラムを実行するためのプログラムファイルを削除せずに直接アップグレードすると、アップグレードが可能です。

インストールプロセスは「新規インストール」と同じであり、プログラムのアップグレード中も設定が維持されます。

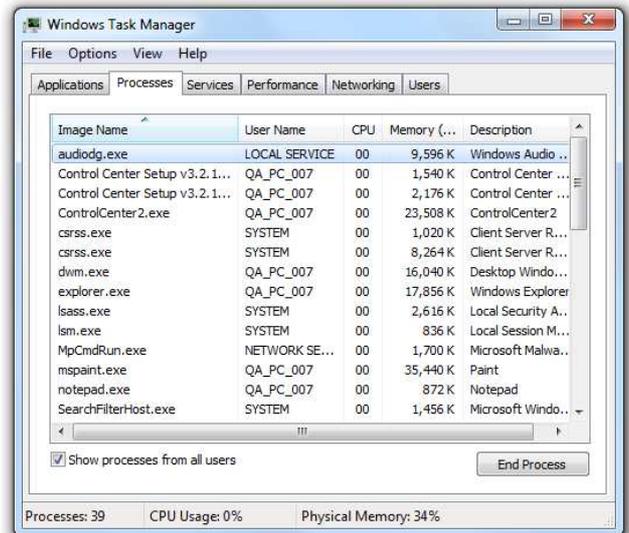
## インストール時に問題が発生したら

他のプログラムがPCで使用されていると、インストールが中止され、コントロールセンターのインストール中にエラーが発生します。Windowsシステムのプロセスと競合の管理を生成することができます。この時点では、インストールプロセスの進行状況が終了し、通常はインストールを続行できます。

- 1) 図のようなエラーが表示されたら[中断]もしくは[無視]をクリックせず、“Windowsタスクマネージャー”を開いてください。



- 2) Windowsタスクマネージャーの下部にある「すべてのユーザープロセスの表示」オプションを選択します。
- 3) "ControllerService.exe"と "Controller.exe"を選択し、[プロセスの終了]をクリックしてプロセスを終了します
- 4) [再試行]をクリックして、インストールを続行します。



## インストールの結果を確認するには

インストールが完了したら、Control Centerが正しくインストールされているかどうかを確認します。

- 1) スタート→すべてのプログラム。
- 2) コントロールセンターが適切にインストールされている場合は、「コントロールセンター」とその他の関連プログラムを含む「Digital Image World」フォルダが表示されます。
- 3) インストール中に選択したToolsフォルダの下にあるプログラム。

<注>

Windowsのバージョンによって表示が異なります。



はじめに

## プログラムの実行/ログイン

パソコンのメイン画面にある「コントロールセンター」のアイコンをダブルクリックしてください。

## ユニット登録

WEBGATEのSDDVR、IPカメラ、NVR、WinRDSなどのすべての製品はControlCenterMonitorに追加して監視および検索（再生）することができ、このプログラムで設定を行うことができます。

## ユニットの追加

コントロールセンターのモニタープログラムにユニットを追加するための4つの方法があります。監視、再生、ユニット登録完了後の設定が可能です。

1. 上部のツールバーにあるユニットの追加アイコン  をクリックします
2. 登録するユニットを右クリックし、[ユニットの追加]をクリックします。
3. 「登録されていないユニット」リストでユニットを選択します。これを「登録単位」にドラッグします。
4. 「登録されていないユニット」リストでユニットを選択します。マウスの右ボタンをクリックし、[ユニットの追加]

### <警告>

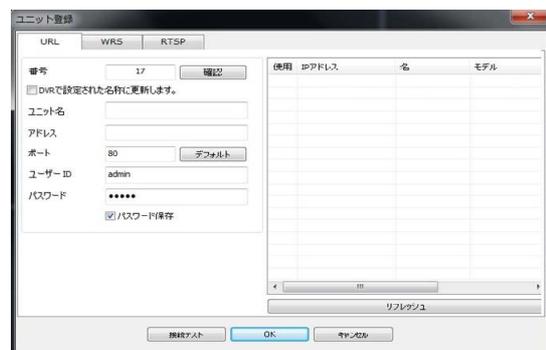
1. ユーザー名とパスワードのデフォルトアカウント。
  - 1) ユーザー名：V3.x.x - Administrator/ V4.x.x以降 - admin
  - 2) パスワード：admin
2. 管理者以外のユーザーがPCにアクセスできる場合は、「ログイン情報を要求しない」オプションを使用してください。
3. [設定オプション表示]メニューの[ログイン情報を確認しない]が選択されていない場合は、プログラムが起動するたびにログイン画面が表示されます。
4. デフォルトのパスワードはセキュリティ上非常に弱いため、初めてパスワードを変更して定期的にパスワードを変更する必要があります。デフォルトのパスワードを使用することによって生じる問題は、ユーザーの責任です。
5. ウイルスや重大なセキュリティコードを保護できるように、Windows Updateとウイルス検出プログラムをインストールすることを強くお勧めします。

## URLアドレス追加ユニット

- 1) ユニットウィンドウを追加したら、URLを選択します。
- 2) ユニットのアドレス、ポート、ID、パスワードを入力して[OK]ボタンをクリックします。  
(アドレス形式"192.168.0.xxx"または "aaa.mycam.to")
- 3) 「登録単位」リストに登録単位が表示されます。

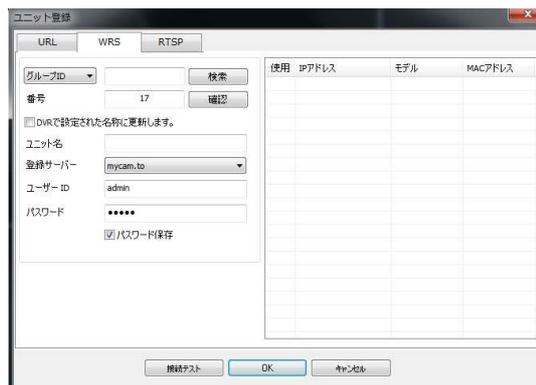
### <注>

1. ローカルエリアのユニットの場合は、[自動検出]ボタンをクリックして簡単にユニットを見つけることが可能です。



## Server(WRS) 追加ユニット

- 1) ユニットウィンドウを追加したら、WRSを選択します。
- 2) 「グループID」を選択し、ユニットに設定されたWRSグループIDを入力するか、「シリアル番号」を選択してユニットのシリアル番号を入力します。
- 3) [検索]ボタンをクリックします。
- 4) ユニットが見つかってリストされたら、登録するユニットを選択します。
- 5) ユニット情報を確認してください。
- 6) IDとパスワードを入力して[OK]をクリックします。
- 7) 登録されたユニットが「登録ユニット」リストに表示されます。



### <備考>

1. DDNSサーバーwww.mycam.toを使用できます。

## RTSP追加ユニット

1. ユニットウィンドウを追加したら、RTSPを選択します。
2. RTSPユニットの高/低分解能アドレスを入力します。
3. ユーザーのIDとパスワードを入力し、[OK]ボタンをクリックします。

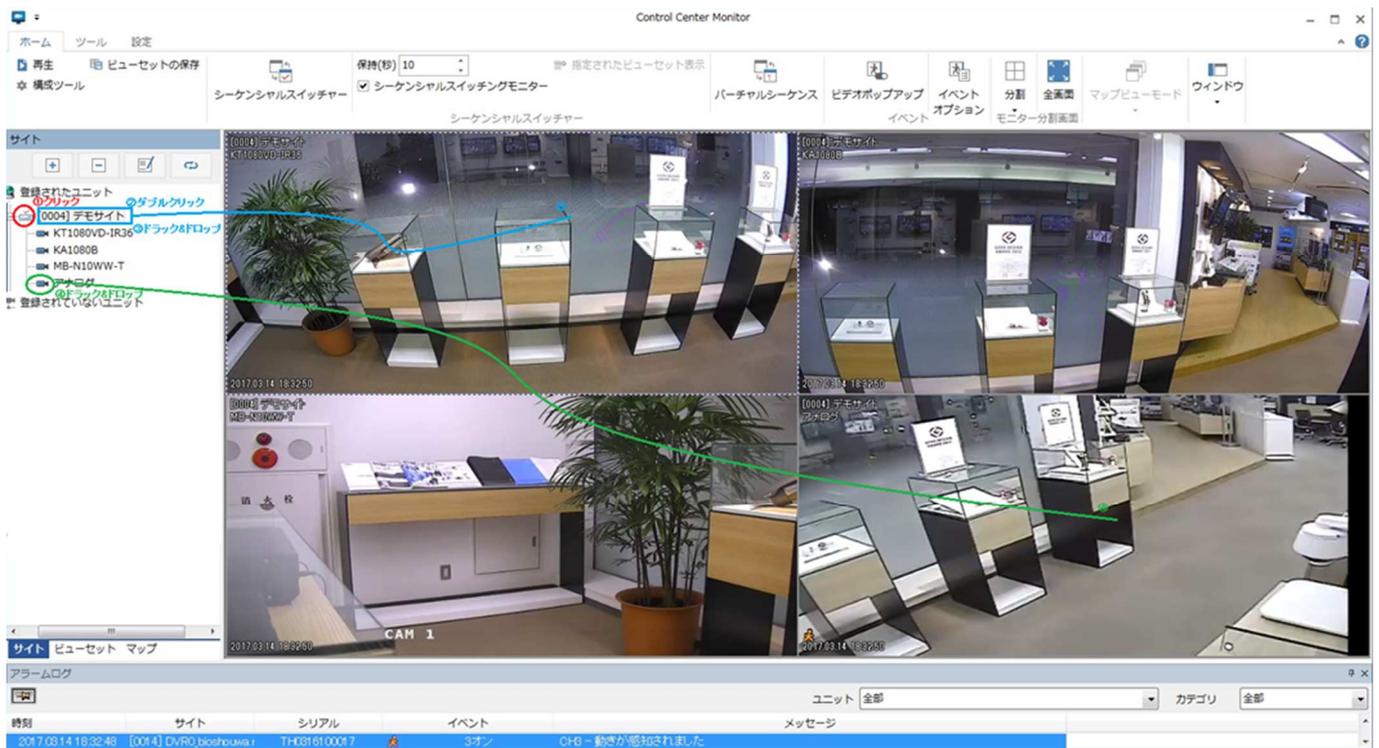
登録されたユニットは「登録ユニット」リストに表示されます。



## ユニットモニタリング

ユニットモニタリングには4つの方法があり、右側にある画像ウィンドウにユニットのライブ画像が表示されます。

1. 「登録単位」リストの「ユニットアイコン」をクリックします。
2. 「ユニット名」をダブルクリックします
3. ユニットの名前をクリックして、イメージウィンドウにドラッグします。
4. リストが開いていない状態で、登録単位の下に表示されているカメラアイコンをドラッグ&ドロップします。



## ユニットの編集

登録済みのユニットに登録されているユニットのポート、番号、ユーザーID、PW、RADIUSキーを編集できます。モニタープログラムの上部にあるツールバーの [編集]アイコンまたは[アクション]項目をクリックするか、モニター上部のメニューまたは[登録されたユニット]の上にマウスを置き、マウスの右ボタンをクリックして[ユニットの編集]を選択します

- 1) 変更したい情報を編集し、[OK]ボタンをクリックします。
- 2) 編集した情報がユニットに保存されます。



## ユニットの削除

「登録されたユニット」リストにあるユニットを削除することができます。削除したユニットを何も制限なく再追加することができます。モニタープログラムの上部にあるツールバーまたはメニューの [削除]アイコンまたは[アクション]項目をクリックするか、または[登録されたユニット]の上にマウスを置き、マウスの右ボタンをクリックしてメニューから [ユニットの削除]。 [はい]をクリックして削除を確認するか、[いいえ]をクリックしてキャンセルしてください。

## RADIUSキー

RADIUSキーを使用する場合は、RADIUSソフトウェアをインストールした別のサーバーが必要です。その後、RADIUS Keyの管理者から受け取ったRADIUSサーバに登録されているIDとPW、Shared Keyを入力してログインし、RADIUS認証サーバを使用してログインする項目を確認する必要があります。しかしその場合、ユニットはRADIUS機能をサポートする必要があり、ONにする必要があります。

### <備考>

1. RADIUS（リモート認証ダイヤルインユーザーサービス）は、RAS（リモートアクセスサーバー）がダイヤルアップモデムを介して接続してユーザーを認証し、要求されたシステムまたはサービスへのアクセスを許可するクライアント/サーバープロトコルソフトウェアです。中央サーバと通信することができます。

## ユニットの情報を更新する

ツールバーの  アイコンを使用するか、ユニットアイテムウィンドウ上にマウスを置き、マウスの右ボタンをクリックし、[更新]オプションを選択してユニット情報を更新します。情報の編集やネットワークの状態の確認に使用できます。

## フォルダーを追加。

「登録されたユニット」にマウスを置き、マウスの右ボタンをクリックして[フォルダの追加]オプションを選択します。

- 1) フォルダ名を入力し、OKボタンをクリックしてフォルダを追加します。
- 2) フォルダは「Registered Units」に表示されます。



## フォルダーを編集する

フォルダ名を編集するには、フォルダを選択し、マウスの右ボタンをクリックし、[フォルダの編集]オプションを選択します。

- 1) フォルダ名を編集して[OK]ボタンをクリックします。
- 2) 「Registered Units」のフォルダ名が変更されました。



## フォルダーを削除する

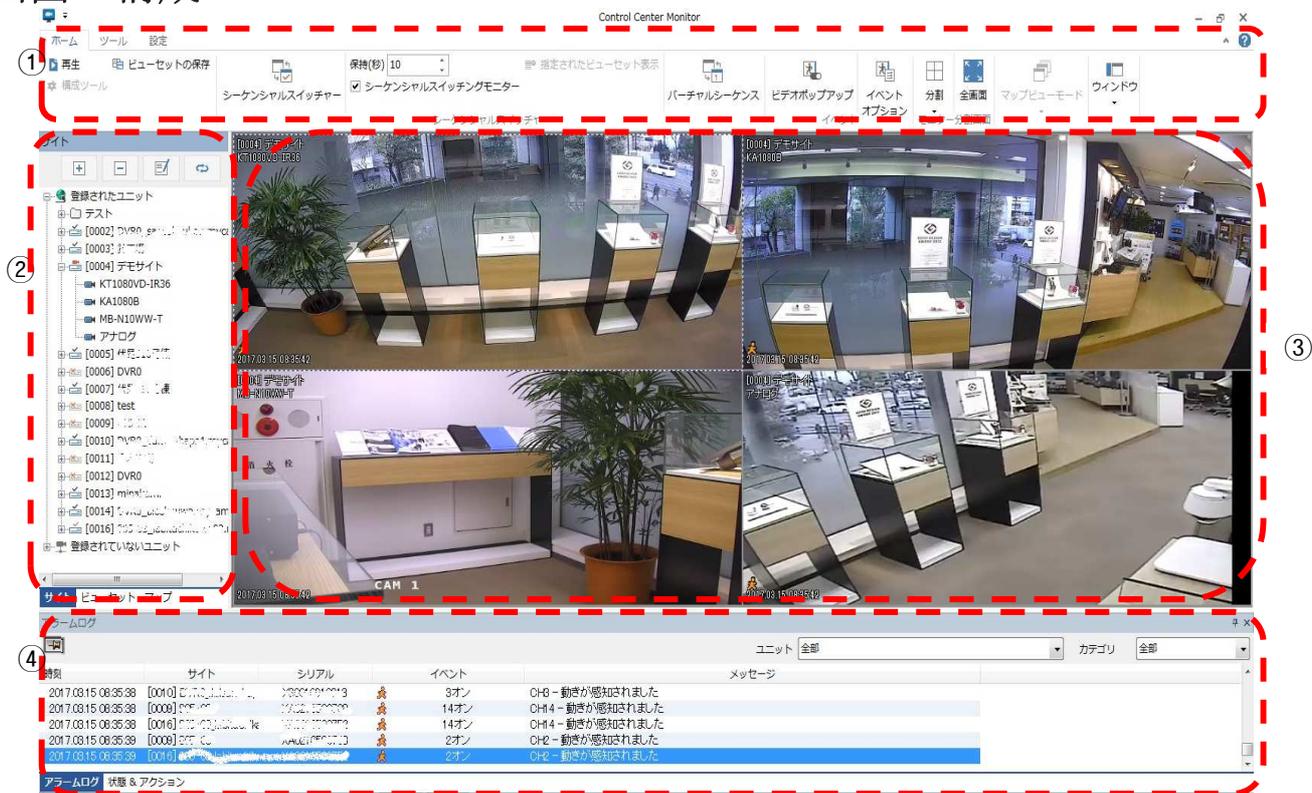
「登録済みのユニット」に登録されているフォルダを削除することができます。フォルダを削除すると、サブフォルダに登録されているユニットと一緒に削除されますのでご注意ください。削除されたフォルダはリストから削除され、後でいつでも制限なく登録することができます。フォルダをマウスで選択し、右ボタンをクリックして[フォルダ削除]を選択すると、フォルダ削除の確認画面が表示されます。フォルダを削除する場合は[はい]、削除を取り消す場合は[いいえ]をクリックしてください。

## ライブビューアー(モニター)

コントロールセンターの監視プログラムにより、接続されたユニットのリアルタイムイメージを監視し、サイトやユーザーを管理することができます。またキーボードジョイスティックやその他の外部機器などの外部機器で、便利で簡単な操作をサポートしながら、リアルタイムのイベント情報やシステムログを確認することができます。

## 画面の構成と機能の名前

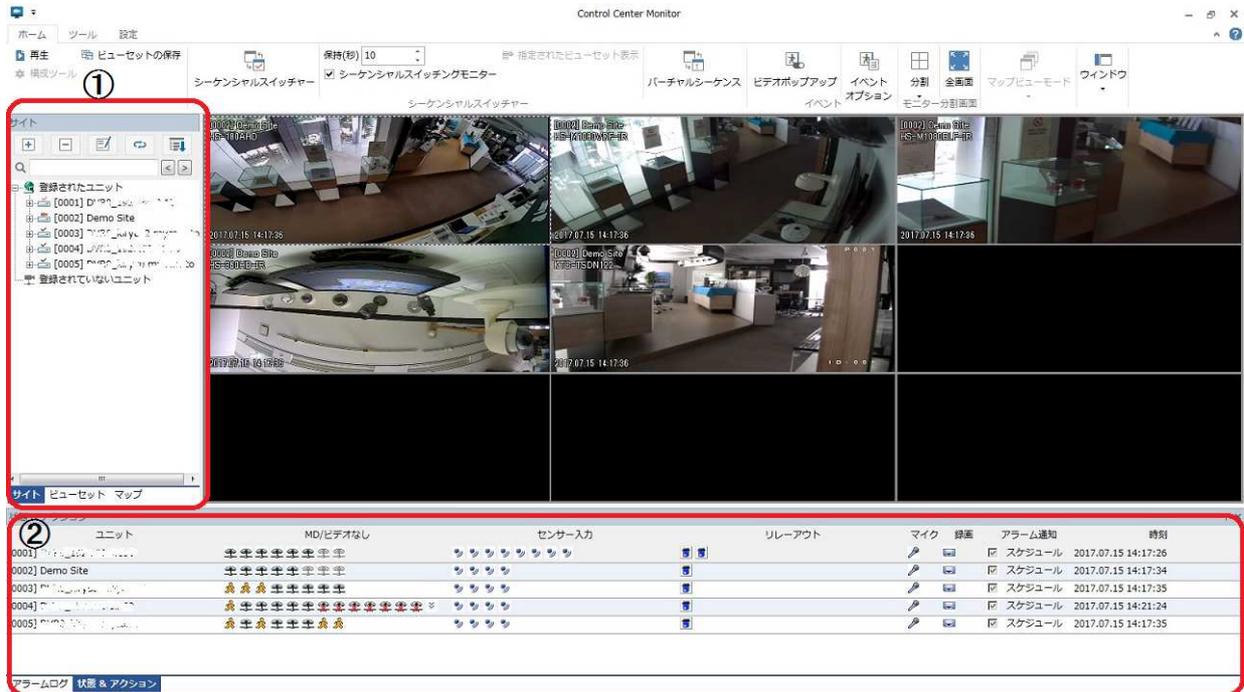
### 画面の構成



アイテム	説明
1	メニュー/ツールバー これはプログラムで使用されるメニューと機能ボタンです
2	ユニットリスト 1. ユニットの追加/削除/変更、ユニットリストのリフレッシュが可能です。 2. プログラムに登録されているユニット/ビューセット/マップを示します。ユーザーはリストをクリックして画像を表示できます
3	イメージ これはライブ監視画像を示します
4	ステータス&アクション ユニットの状態、イベント情報、アラームログを表示します。

## コントロールパネルの位置を動かす

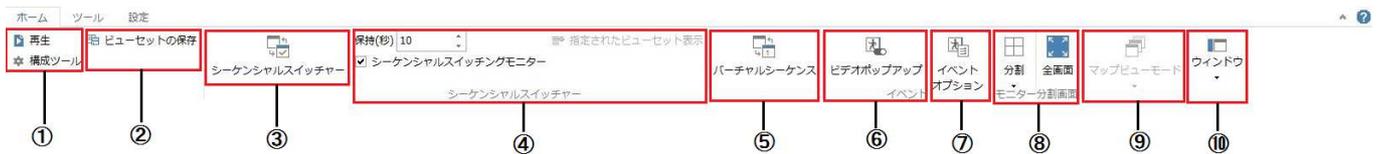
コントロールセンターは、マウスを使用して移動およびドッキングすることができる各コントロールの動的UIをサポートしています。ライブビューアの内部構造を変更することで、最適化された画面を合成することができます。



- 1) ①、②のユーザーコントロールタイトルバーをドラッグすると、ドッキングガイドアイコンが表示され、アイコン上にタイトルバーがドロップされ、コントロールの移動と検索が行われます。
- 2) ライブビューアプログラムの移動位置は、上下左右になり、ビューアプログラムから切り離して個別に配置することができます。

## アイコン機能の説明

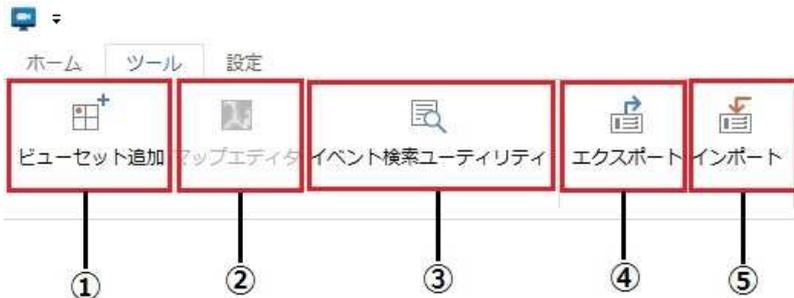
### ツールバー「ホーム」



Item	Description	
1	再生 構成ツール	コントロールセンター再生を実行する コントロールセンター設定ツールを実行する
2	ビューセットの保存	現在の監視状況をビューセットに保存する
3	シーケンシャルスイッチャー	オートシーケンシャル機能のオン/オフを切り替える
4	シーケンシャルオプション	1. 継続時間 (秒) : 自動切替時間の設定 (10秒が最小) 2. シーケンシャルスイッチングモニター : モニターが使用時にマルチシーケンシャル機能を使用する場合チェックを入れます。 3. 指定されたビューセット表示 : ビューセットモードで自動切替を設定します。
5	バーチャルシーケンス	ビューセットで選択されたチャンネルの自動切替表示させます。 ユーザーがこのアイコンをクリックするとバーチャルシーケンスを行うためのビューセットを選択するポップアップウィンドウが表示されます。
6	ビデオポップアップ	ビデオポップアップ機能のオン/オフを切り替えます。
7	イベントオプション	アラームの発生源 (モーション検知、センサー、テストなど) を選択します。
8	分割	モニタ画面分割を選択します。(1,4,9,13,16,25,36,49,64分割)

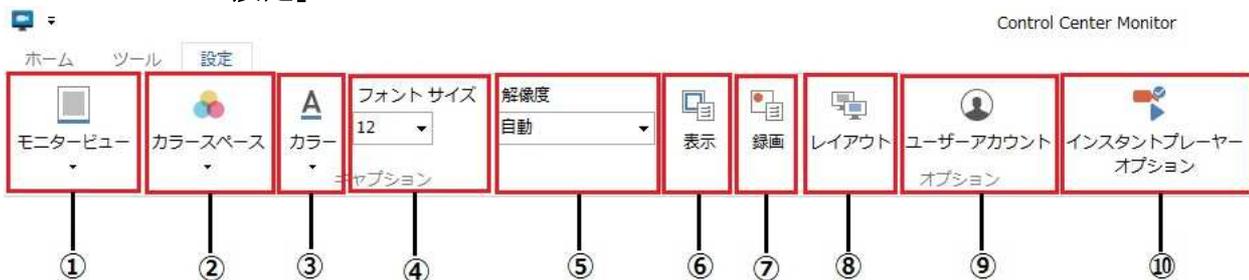
	全画面	全画面表示させます。(キーボードのESCボタンで解除されます。)
9.	マップビューモード	マップモードで起動され、マップは垂直、水平の角度で表示されます。
10.	ウィンドウ	ユニットリストウィンドウやイベントリストウィンドウを表示/非表示の選択ができます。

## ツールバー「ツール」



Item	Description
1	ビューセット追加 ビューセットの追加ウィンドウが実行されます。登録されたユニットの画像は自由に設定でき、この設定されたステータスはビューセットに保存できます。
2	マップエディター マップモードで実行されます。マップの追加、編集、削除をサポートします。
3	イベント検索ユーティリティ 保存されたイベントは、日付、単位、カテゴリで検索されます。
4	エクスポート コントロールセンターモニタのエクスポート設定。
5	インポート コントロールセンターモニタのインポート設定。

## ツールバー「設定」



Item	Description
1	モニタービュー 1. フル：フルサイズで表示されます 2. 比較：画像は画像の比率で表示されます 3. キャプションエリア：キャプション領域を含むウォッチモード。
2	カラースペース YUV / RGBの間のカラー表現を選択します。(YUVが推奨されます)。
3	カラー 画像ウィンドウに表示される文字の色を変更することができます。
4	フォントサイズ ウィンドウに表示される文字の大きさを変更することができます。
5	解像度 1. 自動：画像のサイズ、ネットワークの状態、FPSなどを自動的に分析して最適な最適化解像度を自動的に表示します。 2. 録画ストリーム：DVRで設定されている録画設定に固定されます。 3. ネットワークストリーム：画像は低解像度で固定表示されます。
6	表示 DirectX描画、インターレース解除、半径共有キー、キャプション、ウォッチドッグ、定期的に再起動、自動シャットダウンなどを設定します。
7	録画 記録保存機能と画像保存機能を実現したときのファイル保存パス設定など、さまざまな設定が可能です。
8	レイアウト コントロールセンターモニターのモニター設定をセットアップできます。
9	ユーザーアカウント コントロールセンターモニターのユーザーのユーザー、編集、削除を追加します。
10	インスタントプレーヤーオプション インスタントプレーヤーのビデオ開始時間と終了時間を設定します。

## Unit list window ユニットリストウィンドウ

Icon	Description
	登録されたユニットの一覧表示
	登録されていないユニットの表示（ローカルネットワーク上にあっても表示されます。）
	登録されたユニットは、サブフォルダ内で管理することができます。
	ユニットとの接続失敗ステータス（接続失敗）。
	ユニットとの通信は可能ですが、ログインに失敗します。（ログイン失敗）
	ログインが成功しました。
	アラームが入ると5秒間点滅します。
	ユニットのすべてのビデオチャンネルが監視中です。
	WinDVRS, WinRDSユニット
	ビデオチャンネル（青い状態は監視中を意味します。）
	センサー
	リレーアウト
	オーディオアウト(話す)
	ビューセット
	マップ
	マップのサブフォルダ（チャンネル、リレー、センサー、オーディオ出力）

## ユニットリストウィンドウのポップアップ説明

サイト/ビューセット/マップモードの各ユニットリストウィンドウ上でマウスの右ボタンをクリックすると、ポップアップメニューが表示されます。それは、登録、編集、ユニットとフォルダの管理を削除することが可能です、開いているユニットのリスト機能を使用することができます。



	アイテム	説明
1	ユニット/ビューセット/マップの追加	サイト/ビューセット/マップモードで使用される各デバイスの登録ステータスを管理できます
	ユニット/ビューセット/マップの編集	
	ユニット/ビューセット/マップの削除	
2	すべてを拡大する	ユニットリストウィンドウに登録されている全ての機器のツリーを開く
	すべてを縮小する	ユニットリストウィンドウに登録されている全ての機器のツリーを閉じる
3	フォルダー追加	サイトモードでグループ内のユニットを管理するフォルダを作成して管理する
	フォルダー編集	
	フォルダー削除	

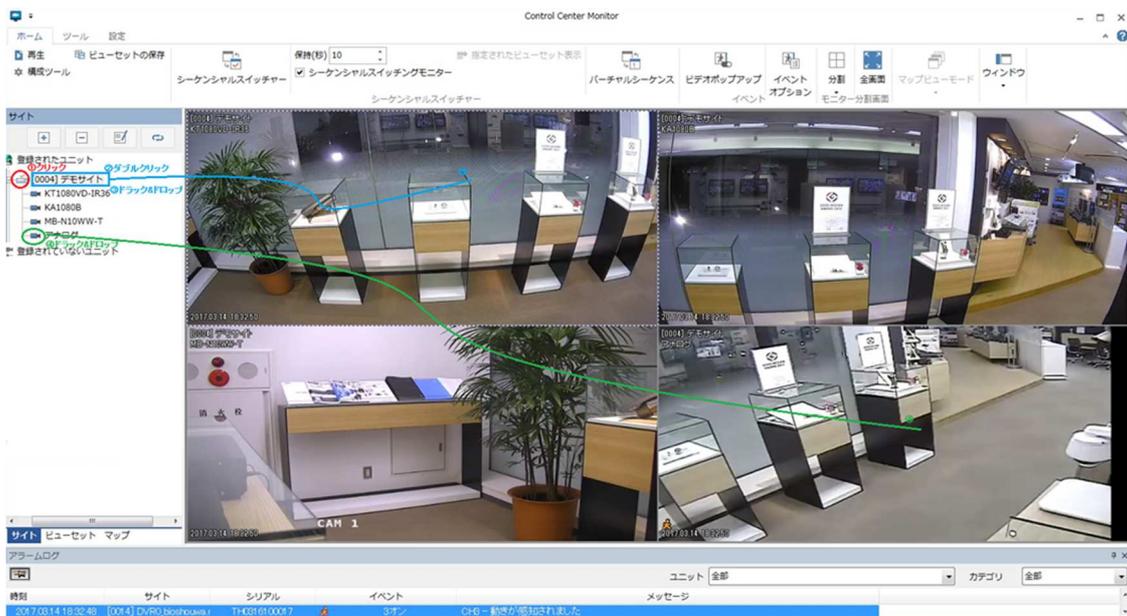
4	再生	コントロールセンタプレイバックの実行
5	設定	コントロールセンター構成ツールプログラムを実行する
6	更新	ユニットリストウィンドウの更新
7	すべてのチャンネルを再生	地図に登録されているすべてのチャンネルの画像がライブビューアで表示されます
7	すべてのチャンネルを停止	地図に登録され、ライブビューアに表示されているすべての画像を閉じる
8	IPアドレスの変更	選択したユニットのIPアドレスを変更します
9	Reboot	選択したユニットを再起動します。
10	再生	選択したビューセットを再生します。

## サイトモード

### サイト接続

「登録されたユニット」リストの「ユニットアイコン」をクリックするか、「ユニット名」をダブルクリックすると、ユニットからライブビデオを取得できます。デフォルトでは、DVRのすべてのチャンネルを表示するように分割画面が表示されます。個別にチャンネルを選択することもできますし、「ユニットアイコン」または「カメラアイコン」のドラッグアンドドロップを使用することもできます。

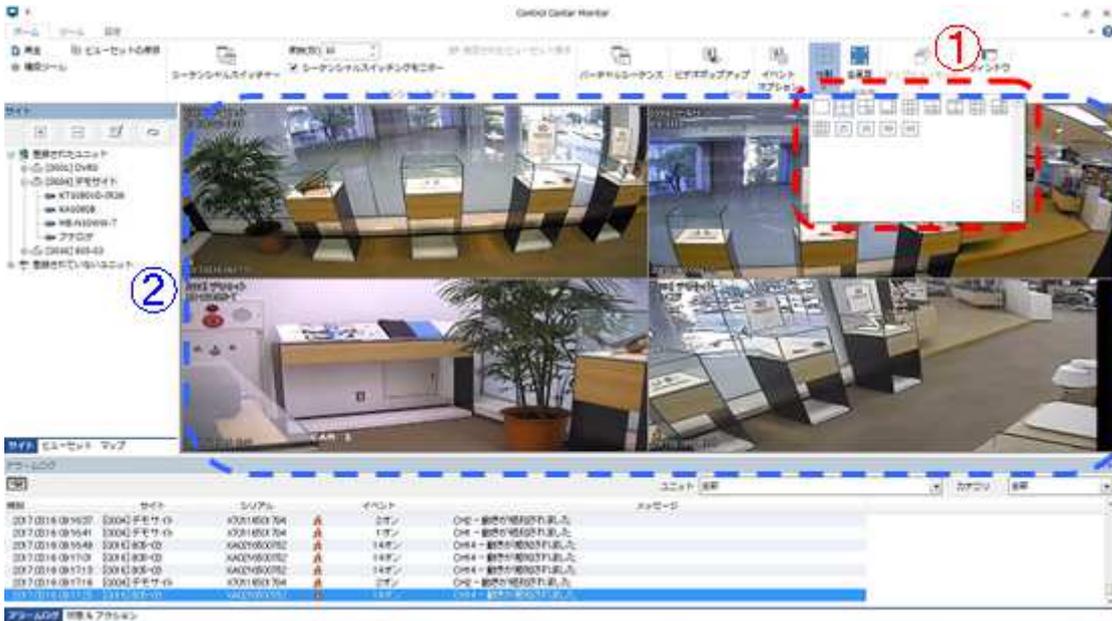
このような操作は、ビューセットとマップモードで同じである可能性があります



上記と同様に、①の単位を②の領域にクリックまたはドラッグすると、映像が映像ウィンドウに表示されます。

## ビデオ分割モードの変更

分割モードは1~64分割で、スプリットモードアイコンをクリックするか、ビデオウィンドウをダブルクリックしてチャンネルを切り替えます。



上記と同様に、①分割モードアイコンをクリックするか②ビデオウィンドウをダブルクリックしてシングルまたはマルチチャンネルを切り替える

## フルスクリーンモード

コントロールセンターのコントロールを隠す完全な分割画面をサポートし、フルスクリーンモードを実行してフルスクリーンモードを実行するには、 [全画面]をクリックしてください [ESC]キーで画面モードに戻ります。



## 画像の位置を移動する

画像の位置を移動するには、画像をドラッグしてマウスの上にドロップし、別のモニタ画像で自由に移動させることができます。



上記と同様に、①を②の位置にドラッグすると、①と②の画像の位置は同じ意味で表示されます。

## ビデオウィンドウのポップアップメニュー

画像上のマウスを右クリックするとポップアップメニューが表示され、ビデオ上でメイン機能をすばやく使用できます。この機能はチャンネルにのみ適用されます。



アイテム	説明
1 PTZ	選択したカメラがPTZの場合（DVR側から制御可能な設定になっている場合）制御可能です。
2 ローカル録画開始	リアルタイムビデオはRE4形式で記録され、C : W CCQuickRecordingフォルダに保存されます。
3 名前を付けて保存	リアルタイム画像はJPEG、BMP形式で保存できます。
4 音声出力	オーディオ出力オン/オフとコントロールボリューム。
5 デジタルズーム	イメージは、マウス制御を使用してシングルモードでデジタル拡大することができます。ミニマップビューでは全体の画像を見ることができます。ズームエリアを移動するにはミニマップをクリックしてください。
6 すぐに再生	インスタントプレーヤーのウィンドウが開き、インスタントプレーヤーオプションの設定に従って、選択したチャンネルのビデオを再生することができます。
7 バッファリング	ネットワークの速度が遅く、ビデオのモニタリングが不自然である場合、バッファリングはビデオを自然に表示するのに役立ちます。
8 Bookmark	ブックマークを保存します。（ブックマーク機能をサポートするDVRでのみ有効）。
9 カメラのセットアップ	カメラメニューを設定するポップアップコントロールメニュー。
10 キャプション	ビデオ画像に表示させる項目を設定します。ビデオが再接続されるとこの設定はデフォルトに戻ります。
11 ストリーム	画像のストリームを変更します。 ビデオが再接続されると、画像ウィンドウのサイズに基づいてストリームが自動的に選択されます。

### <注意>

伝送フレームレートを低減することができます。 キャプションオプションのチェックを外すか、ポップアップメニューの画像（この場合は、ポップアップメニューのキャプションのチェックを外すと、より良い送信フレームレートが確認できます）。

## 状態&アクション

「Registered Units」に登録されているユニットのステータスと動作を確認することができます。さらに、マイクとアラーム通知を使用してスケジュールすることもできます。

① ユニット	② MD/ビデオなし	③ センサー入力	④ リレーアウト	⑤ マイク	⑥ 録画	⑦ アラーム通知	⑧ 時刻	⑨ DVRS シリアル番号	⑩ シリアル番号	⑪
[0001] ...	...	...	...	...	...	☑ スケジュール	2017.07.15 18:45:37	...	...	...
[0002] Demo Site	...	...	...	...	...	☑ スケジュール	2017.07.15 18:45:43	...	...	...
[0003] ...	...	...	...	...	...	☑ スケジュール	2017.07.15 18:45:42	...	...	...
[0004] ...	...	...	...	...	...	☑ スケジュール	2017.07.15 18:49:28	...	...	...
[0005] ...	...	...	...	...	...	☑ スケジュール	2017.07.15 18:45:36	...	...	...

アラームログ 状態 & アクション

Item	Icon status	Description
1 ユニット		ユニットリストウィンドウにユニット名を表示します。
2 MD/ビデオなし		ユニットでサポートされているビデオチャンネルを表示します ビデオチャンネルとチャンネルでサポートされているすべてのユニットが表示され、接続ステータスとモーション検出が表示されます。 (カメラ接続、ビデオロス、カメラ非作動、動き検出)
3 センサー入力		センサーでサポートされているユニットとセンサーの動作状況を表示します。(センサOFF/センサON) 炎検出カメラが接続されている場合、動作状況を表示します。 (センサOFF/センサON)
4 リレーアウト		それはリレーとリレーの動作状態でサポートされているユニットを表示し、アイコンをクリックしてリレーを制御することができます。 (リレーは無効、リレーはオフ、リレーはオン)
5 マイク		マイクアイコンを押して音声出力を音声で送ることができます。 (マイクOFF、マイクON)
6 録画		ユニットのHDDステータスを表示します。 (録画なし/HDDエラーなし、正常録画/HDDエラーなし、録画なし/HDDエラー、録画あり/1台以上のHDDエラー) <b>※録画に何も表示がない場合はHDDが認識されていない可能性があります。</b>
7 アラーム通知	<input checked="" type="checkbox"/> As Schedule <input type="checkbox"/> Always Off <input checked="" type="checkbox"/> Always On	アラーム通知の動作状況を設定することができ、設定に応じて、オーディオアラームやモニタの表示を行います
8 時刻		現在の日付と時間を表示します
9 DVRSシリアル番号		DVRSとWinRDSのシリアルナンバー
10 シリアル番号		ユニットのシリアルナンバーを表示します
11 自動非表示/閉じる		ウィンドウの自動非表示モードを設定または閉じることができます。

## アラームの通知設定

右端の「アラーム通知」では、各ユニットのアラーム通知方法を設定することができます。「スケジュール適用」、「常時オン」、「常時オフ」の3つの方法、アラーム通知ポリシー。

メニューオプション>アラーム通知タブでアラーム通知とスケジュール設定を設定します。

## アラームログ

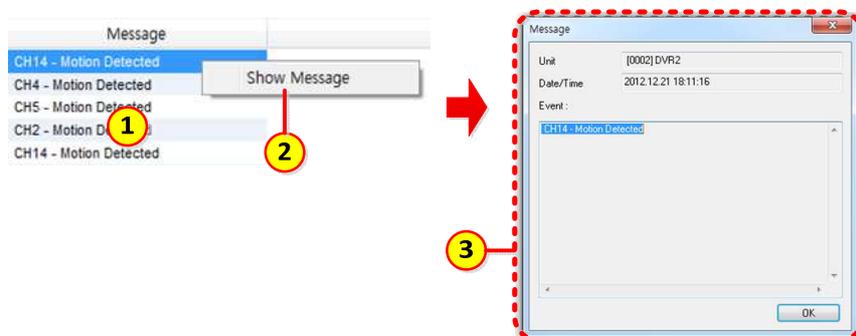
ユニットに登録されている「登録されたユニット」は、ユニットのアラームログを確認できます。リアルタイムログを表示し、ユーザが望む可能性のある情報のみを表示するように設定できます。



	Item	Icon Status	Description
1	時刻		アラーム発生日時を表示します
2	サイト		アラーム発生ユニット名を表示します
3	シリアル		アラーム発生ユニットのシリアルナンバーを表示します
4	イベント		アラーム発生情報のアイコンと番号を表示します。 (動き検出、センサーオフ、センサーオン、アラームオン、ビデオ接続、ビデオ切断、テキスト入力、ログイン失敗、セットアップ変更)
5	メッセージ		アラーム発生情報のメッセージを表示します
6	ユニット		アラームログはユニットごとにソートできますが、選択できるユニットは1つだけです。アラームログのすべてのユニットに登録されているすべてのユニットを表示することができます。
7	カテゴリー		アラームログは、イベント、エラー、ステータス、テキストを選択することで表示できます。選択できるユニットは1つだけです。アラームログのすべてのユニットに登録されているすべてのユニットを表示することができます。
8	自動非表示/閉じる		ウィンドウの自動非表示モードを設定または閉じることができます
9	リスト修正		更新されたアラームログリストを修正し、新しいアラーム情報が来ても固定リストを保持することができます。

## メッセージビューの詳細

長いメッセージの場合は、メッセージの一部のみを出力し、メッセージ全体を取得したい場合は、「メッセージビュー」から取得できます。



① のリストで②の[Show Message]を右クリックすると③メッセージウィンドウが表示されます。

## PTZコントロール

### パン、チルトコントロール

PTZをサポートするチャンネルを選択し、マウスの右ボタンをクリックしてポップアップメニューの "PTZ" を選択します。ユーザは十字マークが表示されている間にマウスをクリックしてパン、チルトをコントロールすることができます。パンは中央で左右の方向をクリックしてコントロールし、上下をクリックしてチルトをコントロールすることができます。中央から離れた位置をクリックするとパン/チルトが速くなります。



### ズーム、フォーカスコントロール

マウスカーソルをビューウィンドウの左端または右端に移動します。

ズーム、フォーカスのコントロールバーが表示されます。

Z - ズームイン、ズームアウトコントロール

F - フォーカスコントロール

Z0 - 直ちに最大ズームアウト状態に移行します。

### プリセット移動

プリセットリストを選択すると、選択したプリセット位置にカメラアングルが移動します。

#### プリセット セットアップ

セット - プリセットは選択されたプリセットリストに保存されます。

クリア - 選択したプリセットリストを消去します。

### AUX (補助)

プリセットを設定すると、ポップアップメニューに「補助」メニューが表示されます。適切なアクションを選択すると、アクションが実行されます。

### グループ有効

グループモードの場合は、画面の右上隅にある「PTZ」のグループモード操作（「GM」）が表示されます。

## 音声コントロール

オーディオのうちビデオチャンネルに関連付けられているものは、ポップアップメニューで「聞く」が有効になります。オーディオを聞くには、「聞く」を選択します。複数のチャンネルのオーディオを混在させることができます。

## シーケンシャルスイッチャー

自動切り替えが可能な時間を設定することにより、各モニタの映像変換周期をライブモニタリングすることができます。サイト/ビューセット/マップモードを使用して、対応するモードで両方のチャンネル、ビューセット、マップの自動切り替えアクションを使用して登録されて使用することができます。

オートスイッチモードでモニタを実行するには、ツールバーの[シーケンシャルスイッチャー]を選択してください。選択が解除されると、オートスイッチモードがオンであってもオートスイッチモードではモニターは機能しません。オートスイッチ機能を有効にするにはアイコンをクリックしてください。それはオプションで設定された"継続時間"に従って動作します。デフォルトは10秒です。

## アラームポップアップ

適切なモードで登録されているチャンネル内にイベントが発生した時、サイト/ビューセット/マップモードそして両方がポップアップで使用されます。

- 1) 自動切替モードで使用するモニターは、[アラームポップアップのオン/オフ]を選択します。このオプションを選択しないと、モニターはアラームポップアップオプションで動作しません。（使用しているモニターの総数が2台の場合、アラームポップアップモニターとして使用されます）
- 2) [アラームポップアップのオン/オフ]アイコンをクリックすると、アラームポップアップが始まり、イベント

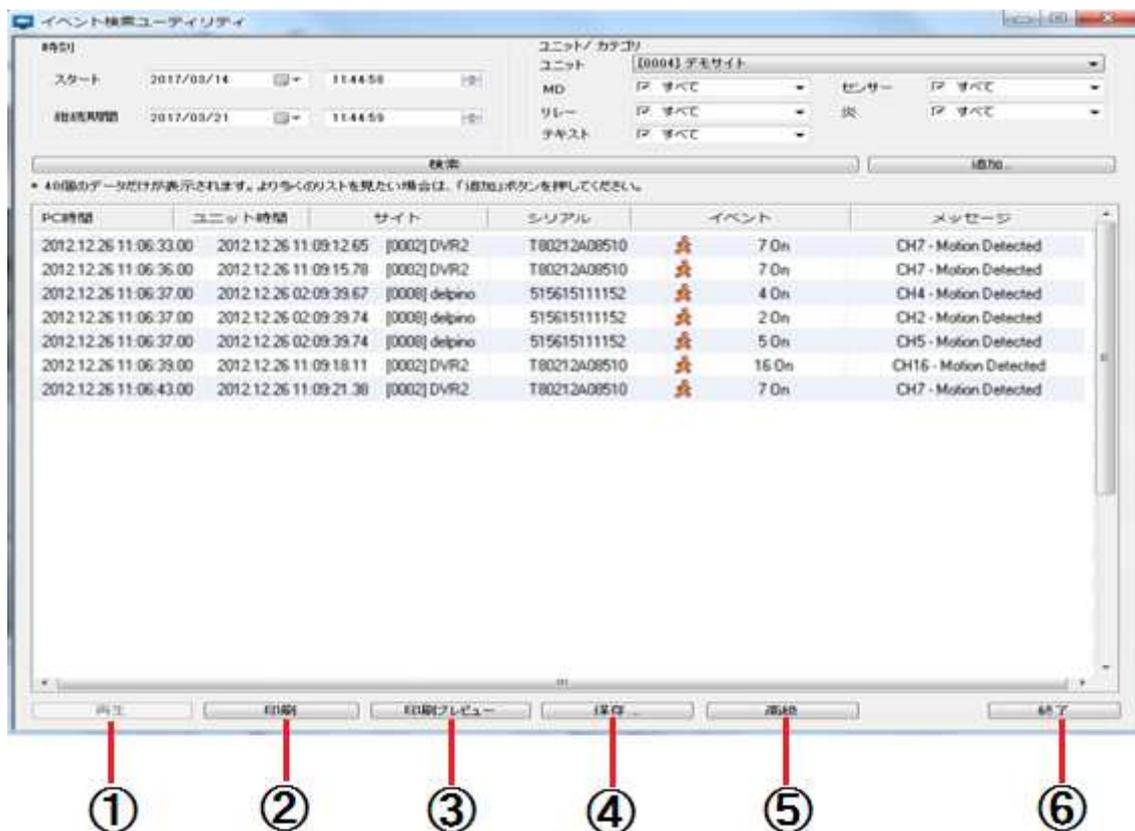
が発生したチャンネルが表示されます。アラームポップアップオプションのイベントリストでイベントが発生した場合、アラームポップアップは "継続時間"で操作されます。

- アラームポップアップ操作中に、他のチャンネルのアラームが発生した場合は、レガシービデオと共にビデオが追加されて表示され、継続時間は最後のアラーム時刻に合わせられます。

## イベント検索

イベントログを検索するには、イベント検索ユーティリティを使用します。特定のユニットまたは分類を選択して検索すると、検索結果を印刷または保存できます。

 [イベント検索ユーティリティ]をクリックするか、ツールタップで[イベント検索ユーティリティ]を選択してください。



- イベント検索ユーティリティで、①開始時刻、②継続時間、③ユニット、④イベントカテゴリを選択します。
- すべての情報が検索に設定されている場合は、[検索]をクリックして検索を開始します。 検索中に検索をキャンセルすると、検索の進行状況が表示されます
- 検索が終了すると、検索結果が表示されます。 検索結果がそれぞれ40件ずつ表示され、⑥[その他]をクリックして別の検索結果を確認します。

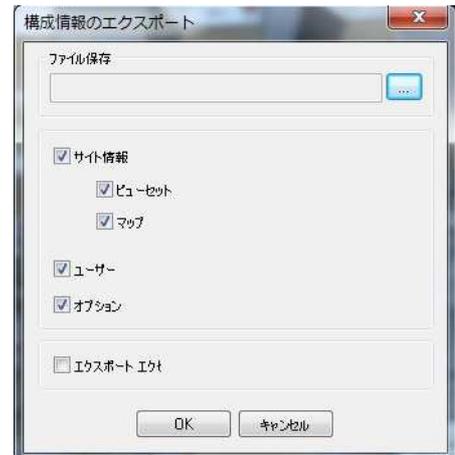
Item	Description
1 再生	選択したビデオの再生が実行されます。
2 印刷	結果を印刷します
3 印刷プレビュー	結果をプレビューします。
4 現在のリストを保存	現在検索されているリスト (最大500ea) をCSVファイルに保存します。
5 すべて保存する	検索したすべてのリストをCSVファイルに保存します。
6 アドバンス	ログ削除 (すべて/セクション/ MD削除のみ) 、印刷セットが利用可能です。
7 出口	イベント検索を終了します。

## 構成情報のエクスポート/インポート

Control Centerの設定情報をエクスポート/インポートできます。

### エクスポート

- 1) [ツールバー-ツール-エクスポート]を選択します。①ファイルパスと名前を保存し、②オプションを選択します。
- 2) ③[Export Excel]オプションがチェックされている場合、CSVファイルに設定情報を保存します。
- 3) ④[OK]をクリックするとzipファイルに保存されます。



### インポート

- 1) [ツールバー-ツール-インポート]を選択します。ウィンドウが実行され、保存されたzipファイルを選択して[開く]をクリックすると、プログラムを再起動するための確認ウィンドウが表示されます。[OK]をクリックしてインポートを完了します。



## ユーザーセット

登録ユーザーは、プログラムを使用して管理者または管理情報を変更することができます。[ツールバー-設定-ユーザーアカウント]を選択すると、下の画面が表示されます。



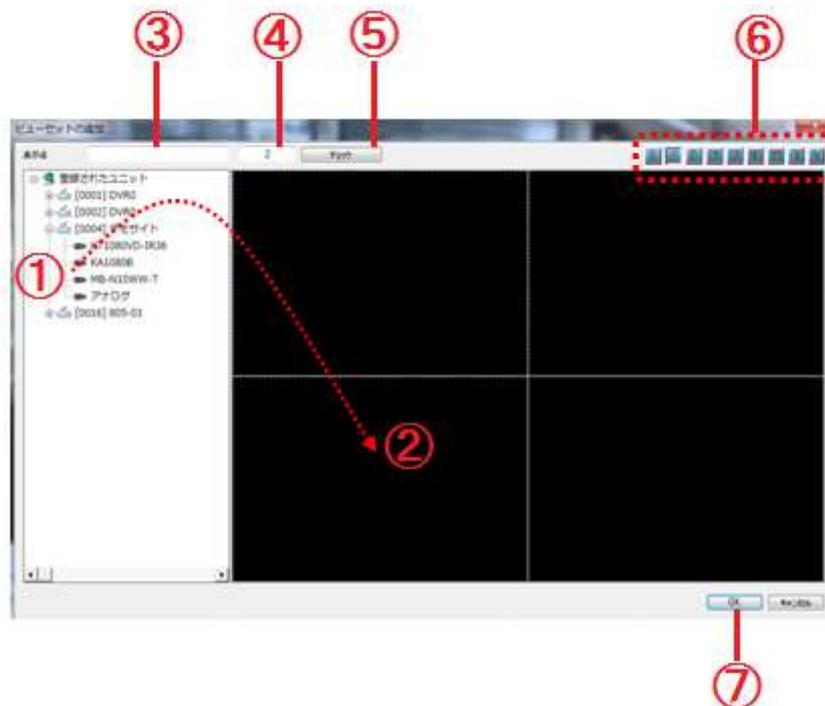
Item	Description
1	このソフトウェアのユーザー これは、プログラムに登録されているユーザーリストを表示します。デフォルトの管理者は、ユーザーアカウント情報を削除および変更できません。
2	追加 ユーザーが追加されたウィンドウが表示され、ユーザーの情報を入力してユーザーのアカウントを追加すると、利用可能なアカウントは最大100です。
3	削除 ユーザーリストを選択してボタンをクリックすると、ユーザーが削除されます。
4	編集 ユーザーリストを選択してボタンをクリックすると、編集ウィンドウが表示され、ユーザー情報を編集して保存して、更新します。

5	ユーザー		ユーザーのアカウント情報を設定し、ユーザーIDの確認、PW、PWを確認する必要があります。そうでなければ、アカウントを登録することはできません。
6	権限	接続権限	ユーザーと管理者を選択できます。管理者を選択した場合は、管理者アカウントがすべて登録されます
		モニター	コントロールセンターモニタープログラムを実行することができます。
		モニターだけ	管理者のサイトのビューセット/マップリストを使用して、レイアウトバッジを変更することはできません
		アラームポップアップのみ	アラームポップアップ機能のみを使用できます。
		制限されたコントロール	アラームポップアップ機能のみを使用できます。
		アラームログ	アラームログウィンドウにアラームログ情報を表示します。
		イベント検索ユーティリティ	イベント検索ユーティリティを使用して実行することができます
		再生	コントロールセンターの再生プログラムを実行することができます。
		バックアップ権限	記録されたデータをバックアップすることができます。
	設定	Control Center Configuration Toolsプログラムを実行することができます。	
7	SMTPコンフィグレーション		SMTP設定をします。



## ビューセットモードで登録する

ビューセットモードで  アイコンをクリックするか、ポップアップメニューの [ビューセットを追加] をクリックします (マウスの右クリック)。

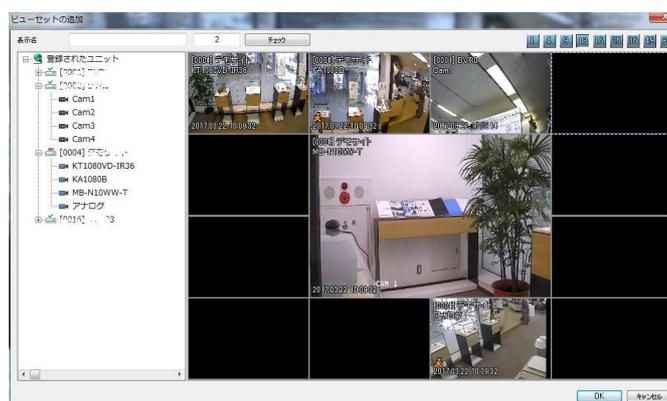


- 1) 「ビューセットの追加」ウィンドウで、⑥アイコンをクリックしてモニター分割モードを決定します。ビデオウィンドウ (②) をクリックし、ビデオウィンドウに表示するカメラ (①) を選択します。また、①のカメラをドラッグして②のウィンドウにドロップすることもできます。
- 2) カメラの登録後、ビューセット名を③に書いて⑤[チェック]をクリックして③の名前と④の番号を確認します。
- 3) ⑦[OK]をクリックすると、ビューセットリストウィンドウに保存されます。登録を取り消すには、[キャンセル]をクリックしてください。

## ビューセット編集

ビューセットリストを選択し、 [編集] をクリックするか、右マウスをクリックして[ビューセット編集]を編集します。

[ビューセットの編集]では、ビューセットの名前、分割モード、および各位置のビデオチャンネルの割り当てを変更できます。この編集操作は、ビューセットの登録と同じ方法です。。



## ビューセット削除

ビューセットリストを選択し、 [削除]アイコンをクリックするかマウスを右クリックして[ビューセットの削除]を選択して削除します。

ビューセットの削除確認ウィンドウで、リストの[はい]をクリックしてビューセットを削除し、[いいえ]をクリックして削除を取り消します。



## ビューセットの再生

ユーザーは、さまざまなDVRのチャンネルを1つのビューセットに登録できます。ビューセットの再生はビューセットのチャンネルを再生および検索できるため、ユーザーはさまざまなDVRのチャンネルを一度に再生したり検索したりすることができます。これはユーザーの利便性を高める強力な機能です。



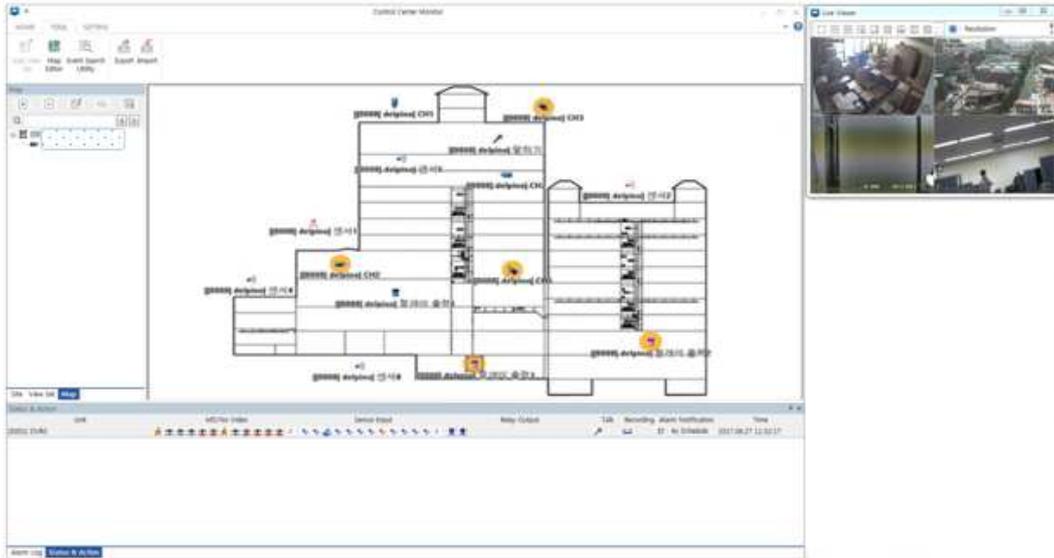
ビューセットの再生を行うには、①ビューセットリストを右クリックし、「再生」を選択します。または、ビューセットリストを選択して、② '再生'アイコンをクリックします。

### 〈注意〉

1. ビューセットのチャンネルが録画されていない場合（DVRのチャンネルおよび/またはIPカメラチャンネル）、そのチャンネルは再生できません。
2. ビューセット再生の場合、コントロールセンターは再生前に各チャンネルのビデオをダウンロードするために「プリロード」を実行します。
3. ビューセットの再生は17チャンネル以上をサポートしていません。ビューセットを再生するには、ビューセットのチャンネル数が16以下であることを確認してください。
4. DVRの接続ユーザー数が最大許容ユーザー数を超えた場合、そのDVRに含まれているチャンネルは再生できません。（再生の最大許容ユーザーは2となっています。）

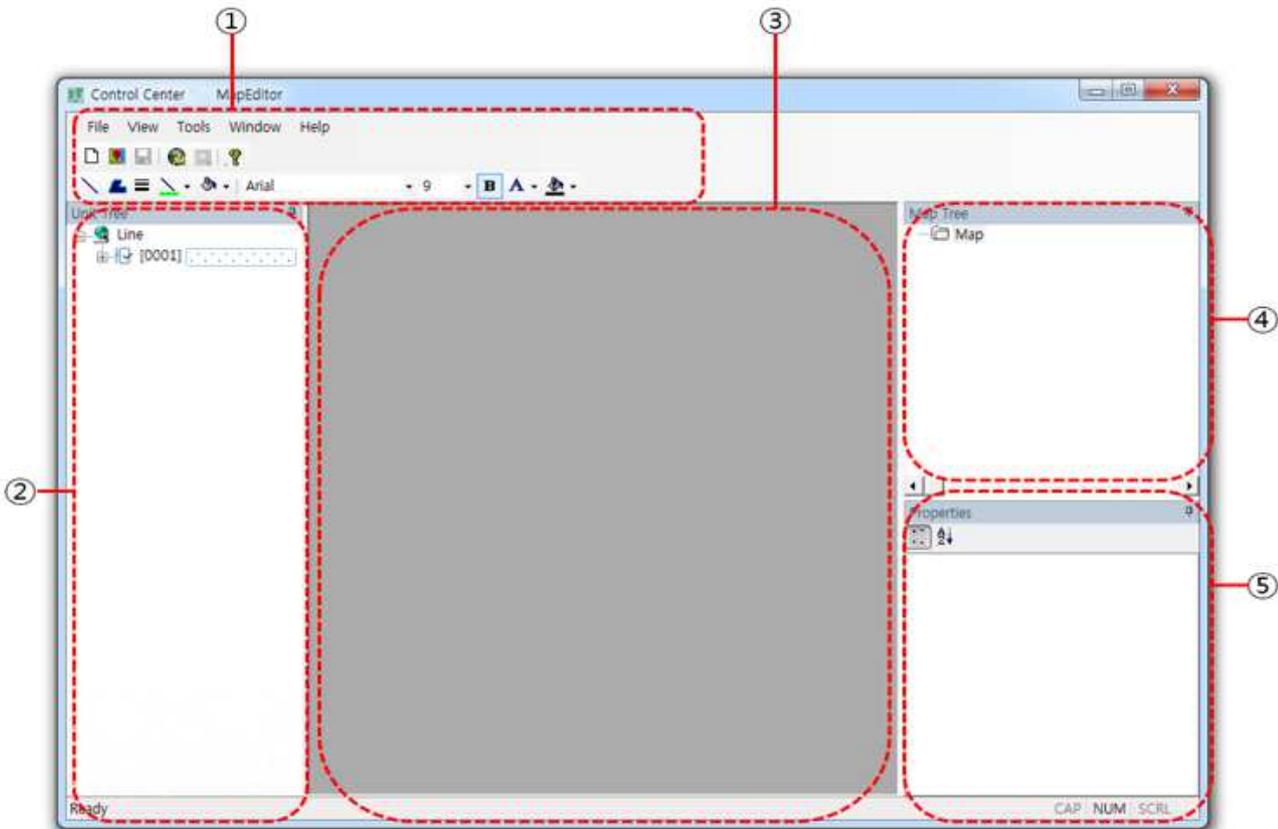
## マップモード

ユニット・リスト・ウインドウの下部にある「MAP」タップをクリックするとMAPモードに切り替えることができます。マップモードでは、カメラ、オーディオ出力、リレーアウト、センサー、マイクを地図上に登録して制御することができ、小さい地図を登録してレイヤータイプに拡張することで便利です。操作ステータスとイベントの発生がマップに表示されます。これにより、管理者は、登録されたユニットの状態をリアルタイムで確認することができます。



## マップ編集

マップモードでツール>[MapEditor]のツールバーを選択すると、マップエディタでマップを追加、編集、削除することができます。



Item

Description

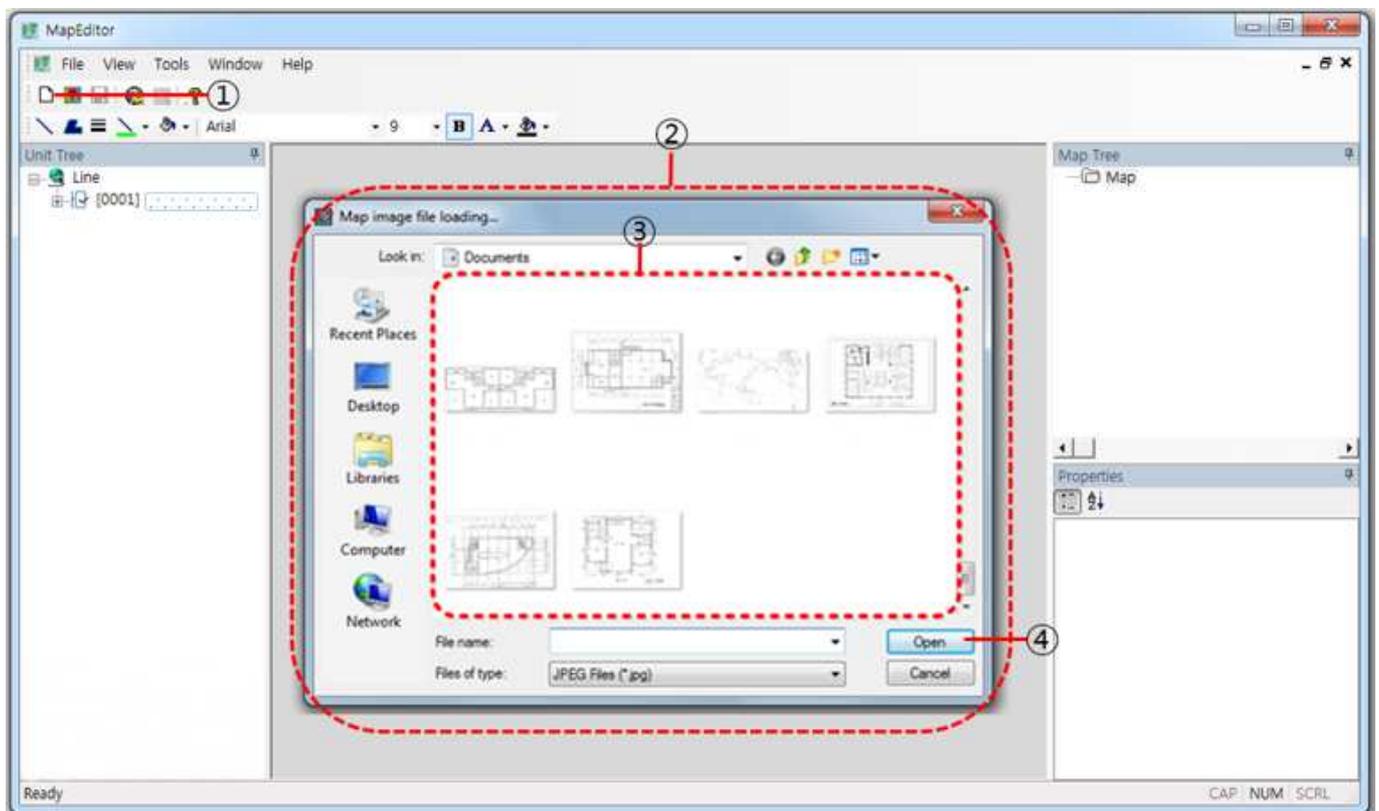
1	メニュー/ツールバー	プログラムのメニューとファンクションボタンを表示し、クリックして使用することができます
2	ユニットリストウインド	RegisteredUnitsに登録されているすべてのインストールが表示され、アイコンをドラッグしてマップに追加できます。
3	マップウインド	マップリストウインドウから選択したマップまたは新しいマップを表示します。
4	マップツリーウインド	登録された地図リストを表示します
5	プロパティウインド	登録された地図の登録情報を表示し、編集することができます。

## マップの追加

マップモードでは、**[+]** [追加]アイコンをクリックするか、またはマウスの右ボタンをクリックしてメニューの[マップの追加]を選択すると、マップエディタが実行されます。 マップエディタで新しいマップを追加できます。

### マップエディターに新しいマップを追加

新しい地図を追加するには、PCに保存されている地図ファイルを開いてください。 地図上にカメラ、センサー、リレー、マイクを登録してください。



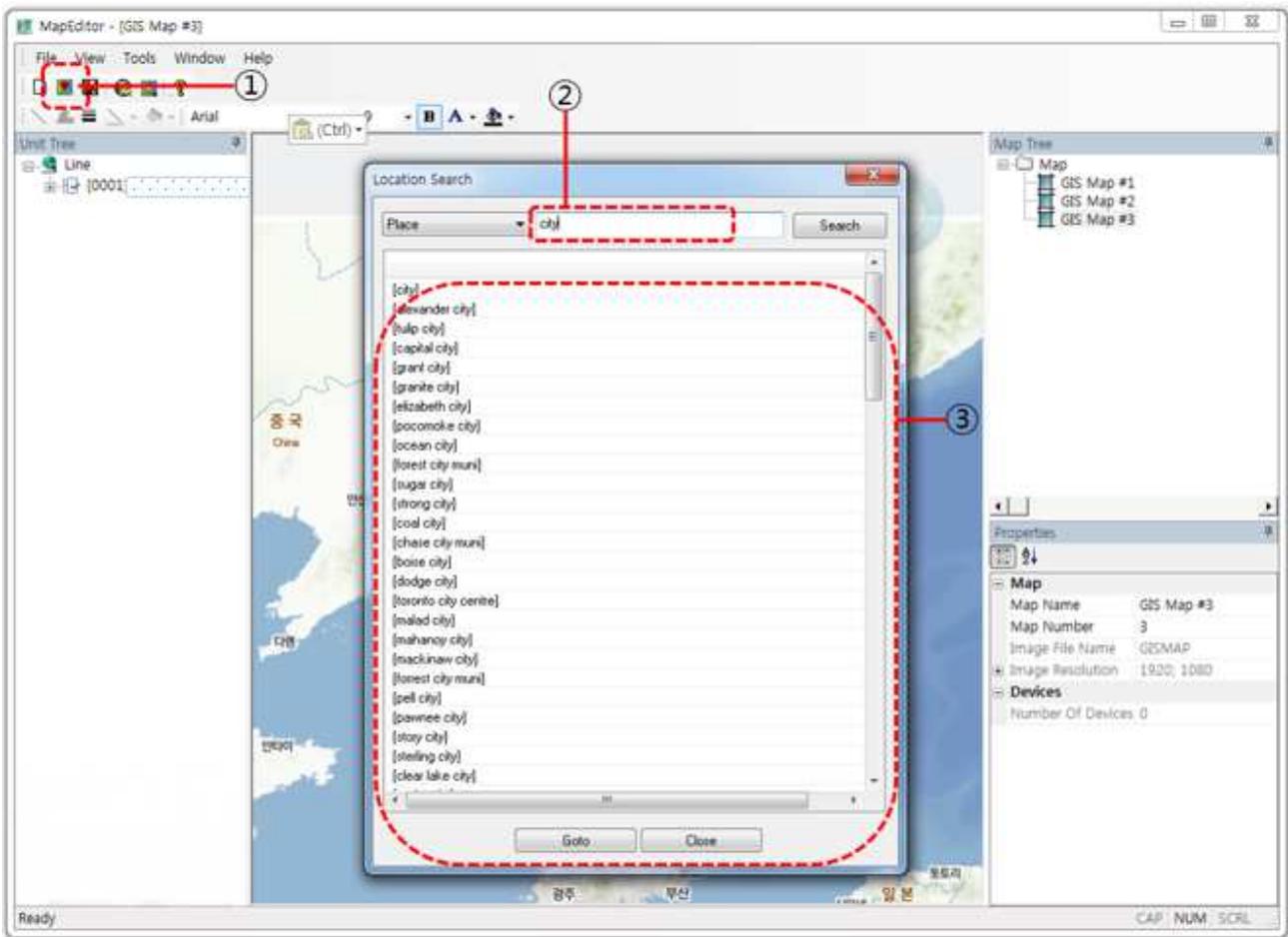
1. 地図エディタでアイコン①をクリックすると、地図画像ファイルの読み込み画面が表示され、地図がある経路を選択し、③地図ファイルを選択し、④[開く]ボタンをクリックして マップウインドウで使用したいマップを選択します。

## 新しいGISマップを追加する

GISマップを追加するには、GISサーバーに接続し、地図ファイルを読み込んでから、カメラ、センサー、リレー、マイクなどを探して登録してください。

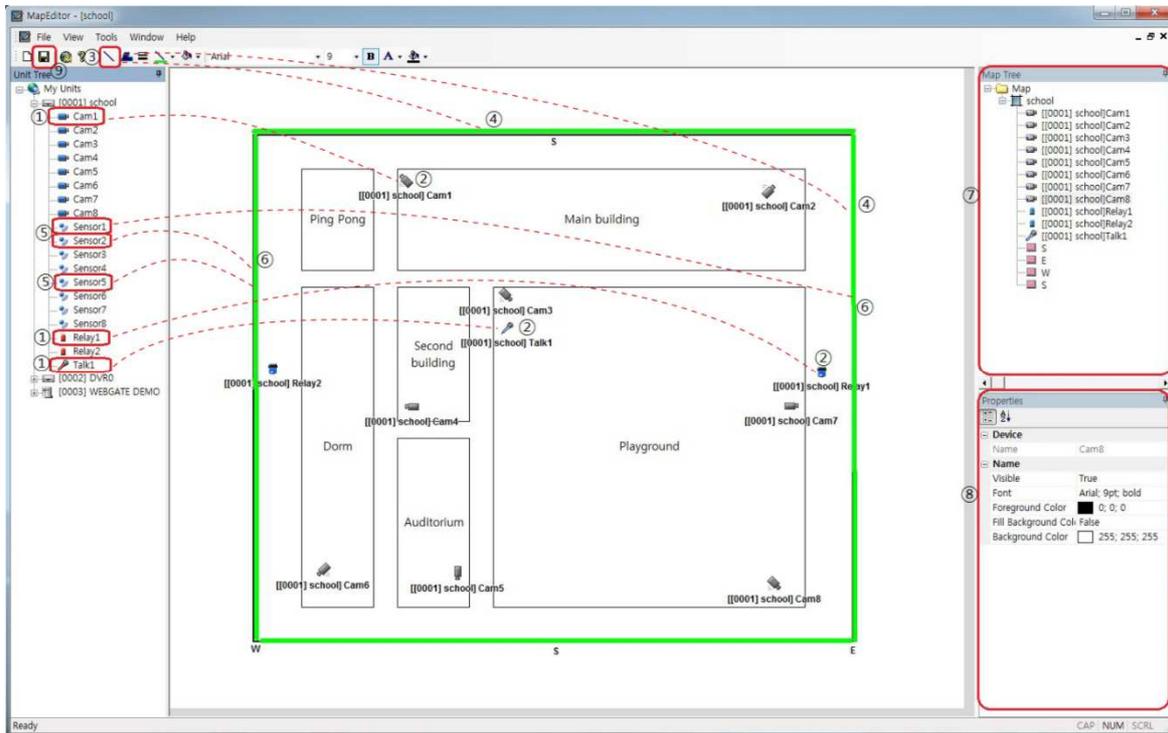
〈注〉

GISマップは韓国語マップのみをサポートしています。



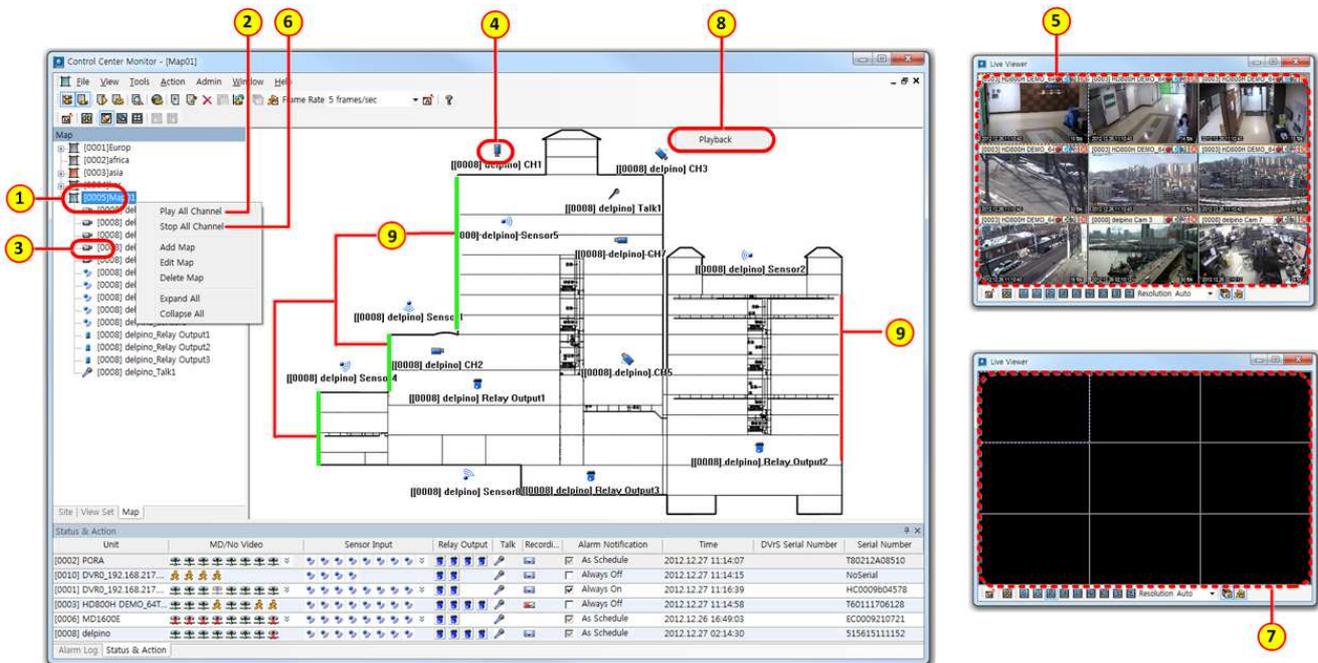
- ① GISマップアイコンをクリックします。
- ② ロケーション検索ウィンドウで検索するロケーションとアドレスを入力します。
- ③ 検索結果画面で場所を選択し、「ジャンプ」ボタンをクリックします。

## 新しいマップにデバイスを追加する



- ① アイコン (カメラ、リレー、マイク) をマップウインドウにドラッグアンドドロップ
- ② カメラ、リレー、マイクが登録されます。
- ③ ツールバーのゾーンアイコンをクリックします。
- ④ マップウインドウにゾーン (緑色の長方形) を追加します。
- ⑤ ゾーン内のセンサーアイコンをドラッグアンドドロップする (緑色の長方形)
- ⑥ センサーが追加され、同様に複数のセンサーを追加することができます。
- ⑦ 登録されているデバイスが「マップツリー」に表示されます。
- ⑧ ゾーン名とその色、イベント発生時の色、背景色などを変更できます。
- ⑨ すべてのデバイスが登録されている場合は、[Save]アイコンをクリックしてマップを保存してください。

## マップイメージを見る



①マップを選択する

②マップ上でマウスの右ボタンをクリックし、[すべてのチャンネルを再生]を選択します。

⑤全てのチャンネルの映像がライブビューアに表示されます。

③～④地図上のカメラアイコンをクリックすると、カメラからの映像を見ることが出来ます

⑥マップ上でマウスの右ボタンをクリックし、[すべてのチャンネルを停止]を選択します。

⑦ライブビューアのすべてのビデオが切断されます。

⑧カメラアイコンを選択し、マウスの右ボタンをクリックして[検索]を実行します。コントロールセンター再生が実行され、選択したユニットが自動的に接続され、録画されたビデオが再生されます。

⑨センサーが作動するとゾーンの色が緑色から赤色に変わります。

## マップエディター

マップリストウィンドウのポップアップで、[地図エディタ]を選択するか、[エディタ]アイコンをクリックし、"マップエディタ"を実行します。

## マップ削除

マップを削除するには、マップエディタを実行する必要があります。マップエディタのマップリストで右クリックしてポップアップメニューを表示し、[削除]をクリックします。

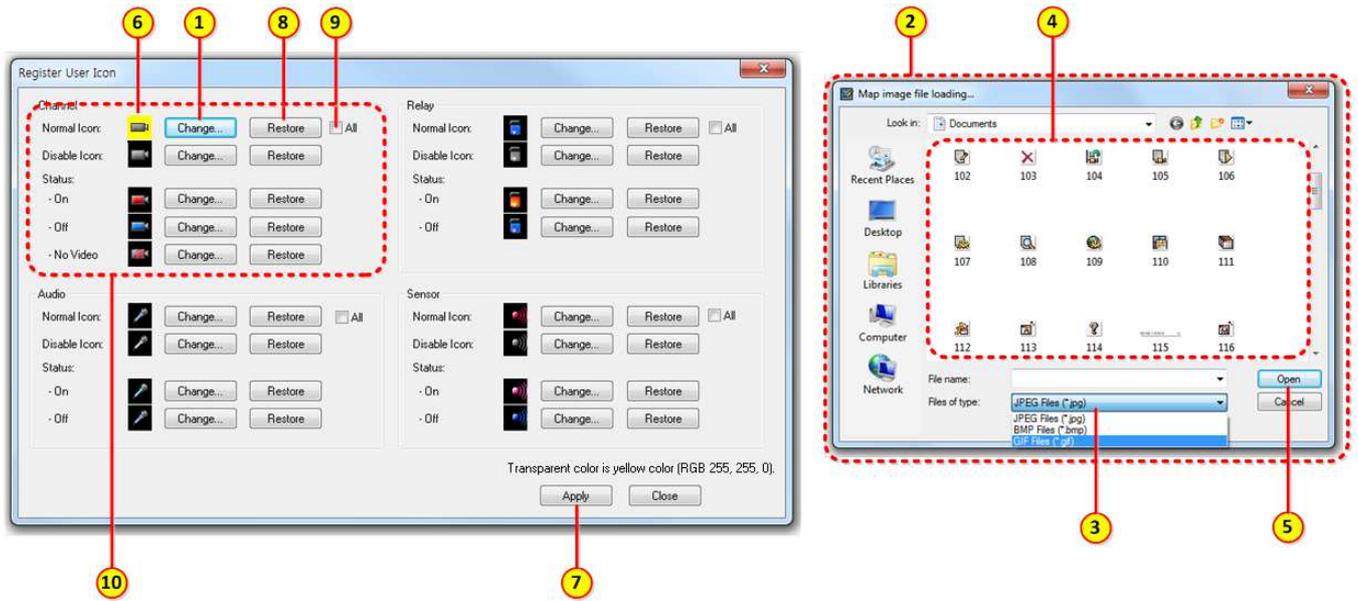
地図の削除確認画面で[はい]をクリックすると、一覧の地図が削除され、[いいえ]をクリックすると削除がキャンセルされます。

## ユーザーアイコン登録

必要に応じてマップに登録されているインストールアイコンを登録して使用することができます。

メニューツールバーの[ユーザーアイコンの登録]を選択し、[ユーザーアイコンの登録]ウィンドウのポップアップを選択します。





- 1) ユーザーアイコンの登録で、①[変更]ボタンをクリックする②「マップ画像ファイルの読み込み」ウィンドウがポップアップします。③ファイルの種類を選択します。
- 2) 指定した種類のファイルの中から④ファイルを選択し、[開く]ボタンをクリックすると、⑥のアイコンが新しく設定されます。⑦下の[適用]ボタンをクリックすると、これらの項目に適用されます。
- 3) ⑧[復元]ボタンをクリックすると、デフォルトのアイコンに戻ります。⑨[全]を選択すると、⑩グループ内のすべてのアイコンが新しいものに設定されます。

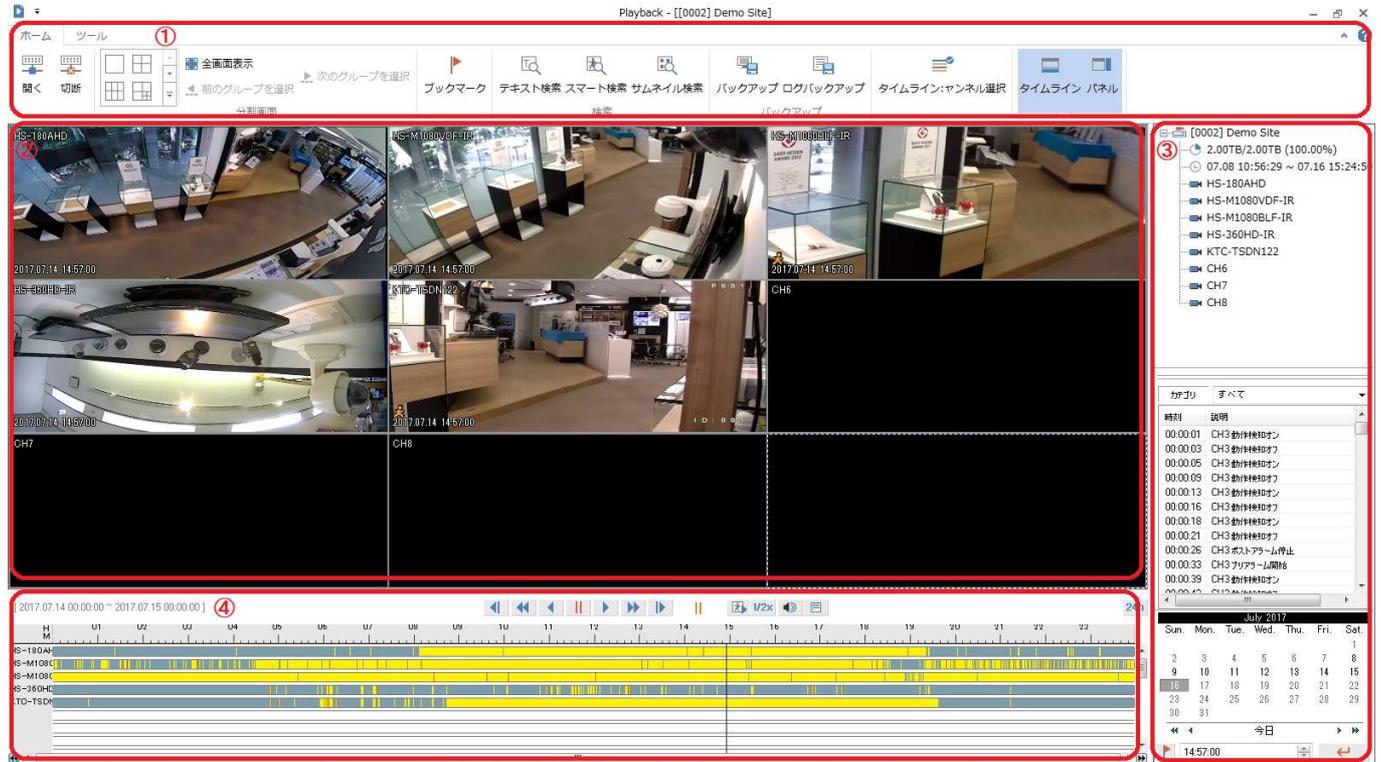
<注>

黄色（RGB255.255.0）をアイコンに割り当てると、アイコンは透明として扱われます。つまり、カメラのアイコンにグレーを割り当て、背景に黄色（RGB255.255.0）を割り当てると、透明な背景にカメラアイコンが表示されます。

## 再生ビューアー

### 画面構成と機能名

### スクリーンの構造



	Item	Description
1	メニュー/ツールバー	メニューと機能ボタンを表示する
2	ビデオウィンドウ	再生ビデオを表示する
3	ログビューアー	ロードされたタイムラインセクションに関連するログを表示します。
	ディスク情報	ディスク使用情報と記録セクション全体を表示する
	チャンネル選択	再生するチャンネルを選択する。
4	カレンダー/タイム検索	カレンダーから日付を選択し、データを検索します。
	再生コントロールボタン	ボタンで再生機能を制御します。
	タイムライン	ユニットと検索タイムラインの保存情報を表示します。

# ビデオウィンドウの表示情報

キャプション設定による再生ビデオの表示情報の設定



	Item	Description
1	チャンネルナンバー	チャンネルナンバーを表示する
	チャンネルの名前	チャンネルの名前を表示する
2	イベント	そのチャンネルのイベント情報を表示する
	時間	ユニット時間を表示する
	タイムゾーン	タイムゾーンの設定値を表示する
3	ユーザー	ユニットの時間を表示する
	スピード	チャンネル動画再生フレーム情報を表示する

# アイコンの機能

## ツールバー「ホーム」



Item	Description
1 開く	サイトに接続または、保存したファイルを開きます。
2 切断	接続を終了します。
3 分割	各種分割表示を選択します。最大は16分割です。
4 全画面表示 前のグループを選択 次のグループを選択	ツールバーをなくしフル画面に映像を表示します。 16CHのDVRで5～8chの4分割表示されている場合、「前のグループ」は1～4CHを意味し「次のグループ」は9～12CHを意味します。
5 ブックマーク	DVRに保存されているブックマークを表示させます。
6 テキスト検索	期間やチャンネル別にテキスト検索を行います。
7 スマート検索	チャンネルと任意の境域を指定し、動きがあった部分を検出します。
8 サムネイル検索	指定したチャンネルの時間間隔を設定し、サムネイル検索を行います。
9 バックアップ	接続しているユニットの日時を指定してデータをバックアップします。
10 ログバックアップ	接続しているユニットのイベントログをバックアップします。
11 タイムライン：チャンネル選択	このアイコンがオンの場合、再生チャンネル選択されていないチャンネルは、ログ及びタイムラインウインドウに表示されません。オフにすると再生チャンネルとして選択されていないすべてのチャンネルがログ及びタイムラインウインドウに表示されます。
12 タイムライン	タイムラインのオン/オフを選択できます。
13 パネル	チャンネル選択、ログ、カレンダーウインドウを表示するかどうかを指定します。

## ツールバー-「ツール」



Item	Description
1	ウォーターマークチェック 元の画像から改ざんされていないかを確認します。
2	画面調整 指定したチャンネルの明るさ、コントラストなどを調整します。
3	デジタルズーム 指定したチャンネルを1画面にするとデジタルズームをかけることができます。選択した領域をズームするにはマウスをドラッグします。画面の右上にミニマップが表示されますのでそこでズーム位置を変更できます。
4	保存 指定したチャンネルの静止画をJPEGまたはBMPファイルをして保存します。
5	印刷 指定したチャンネルのイメージを印刷します。
6	解像度 再生解像度を選択できます。
7	キャプション イメージに表示させたい情報を選択します。
8	スクリーン 再生画面の調整を行います。
9	プレローディング設定 -ドライブ：プリロードデータを保存するようにHDDを設定します。再生中は無効になりますのでこの設定を有効にする場合は、[ホーム] → [切斷] を行ってください。 -ファイルのパス：データをプリロードする場所を指定します。 -ディスク残容量：残りのディスクサイズを設定します。

## ユニット接続とファイルオープン

検索再生ビューアを使用すると、登録されたユニットにアクセスして録画ビデオを再生することができます。また、PCに直接接続しているDVR HDDにバックアップファイルと録画ビデオを開くことができます。ユニットエクスプローラを実行するには、[ツールバー - ホーム - 開く]またはツールバーに表示されているアイコンをクリックします。

### ユニット接続

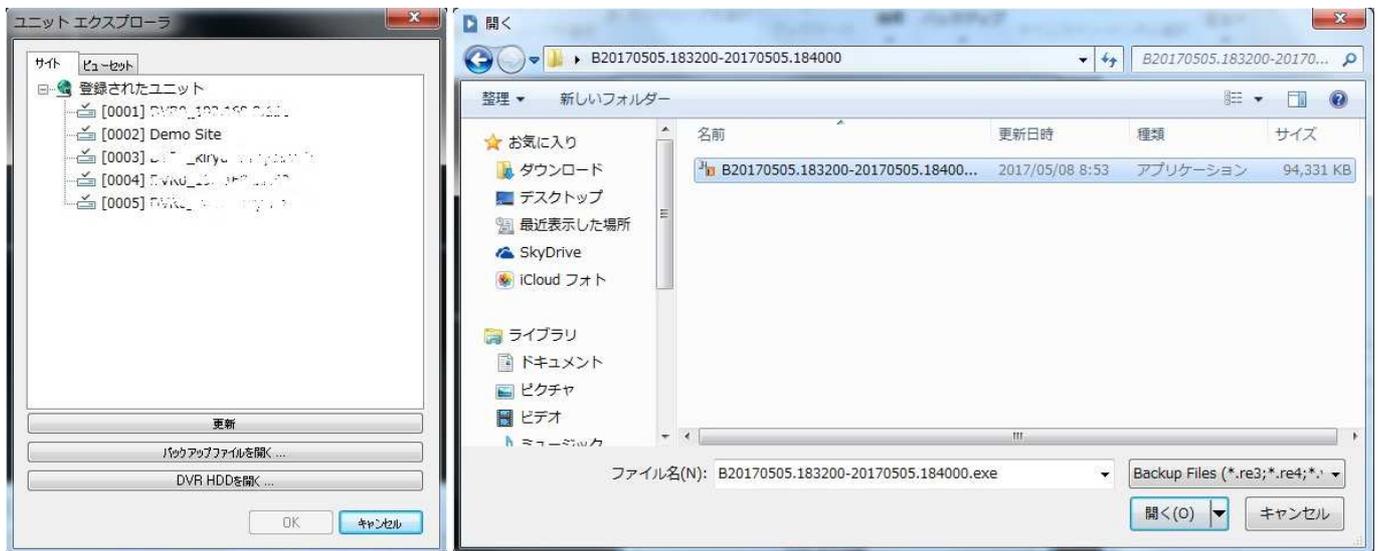
「登録されたユニット」に登録されているユニットにアクセスした後、再生することができます。

- 1) ユニット①を選択し、[OK]をクリックするか、「登録済みユニット」のユニットをダブルクリックします。その場合、保存された録画情報とログ情報が表示され、ユーザーは録画されたビデオをそのユニットで再生できます。
- 2) ユニットリストを更新するには、[更新]ボタンをクリックします。



### ファイルオープン

ユーザーはバックアップファイルを開いて録画ビデオを再生することができます。使用可能なバックアップファイルは「re3、re4、vsf2、vsf3、vsf4」で、他の形式はサポートされていません。ユーザーは、直接ユニット接続のようなすべての同じ情報を見ることができます。



- 1) ユニットエクスプローラで[バックアップファイルを開く]をクリックすると、検索ウィンドウが表示されます。選択したフォルダに、ファイルを選択するとファイル名が表示されます。
- 2) [開く]ボタンをクリックすると、録画情報とログ情報が表示され、バックアップファイルを再生することができます。または、バックアップファイルをドラッグして再生ウィンドウにドロップすると、バックアップファイルを再生できます。

## DVR HDDオープン

DVR HDDはPCに直接接続でき、DVR HDD内の録画映像を再生することができます。記録されたデータを再生し、DVRに直接接続するようなDVRのログを確認することができます。

- 1) ユニットエクスプローラで、[DVR HDDを開く]をクリックすると、DVR HDDを選択できます。
- 2) 「DVR HDDを開く」ウインドウが出ますので「OK」ボタンをクリックすると再生されます。

<注>

DVRのHDDを開くには、管理者権限でControl Center Playbackを実行する必要があります。



<警告>

1. DVRのHDDのパーティションや設定を変更したり、フォーマットまたは編集しないで下さい。録画データが消えてしまいます。

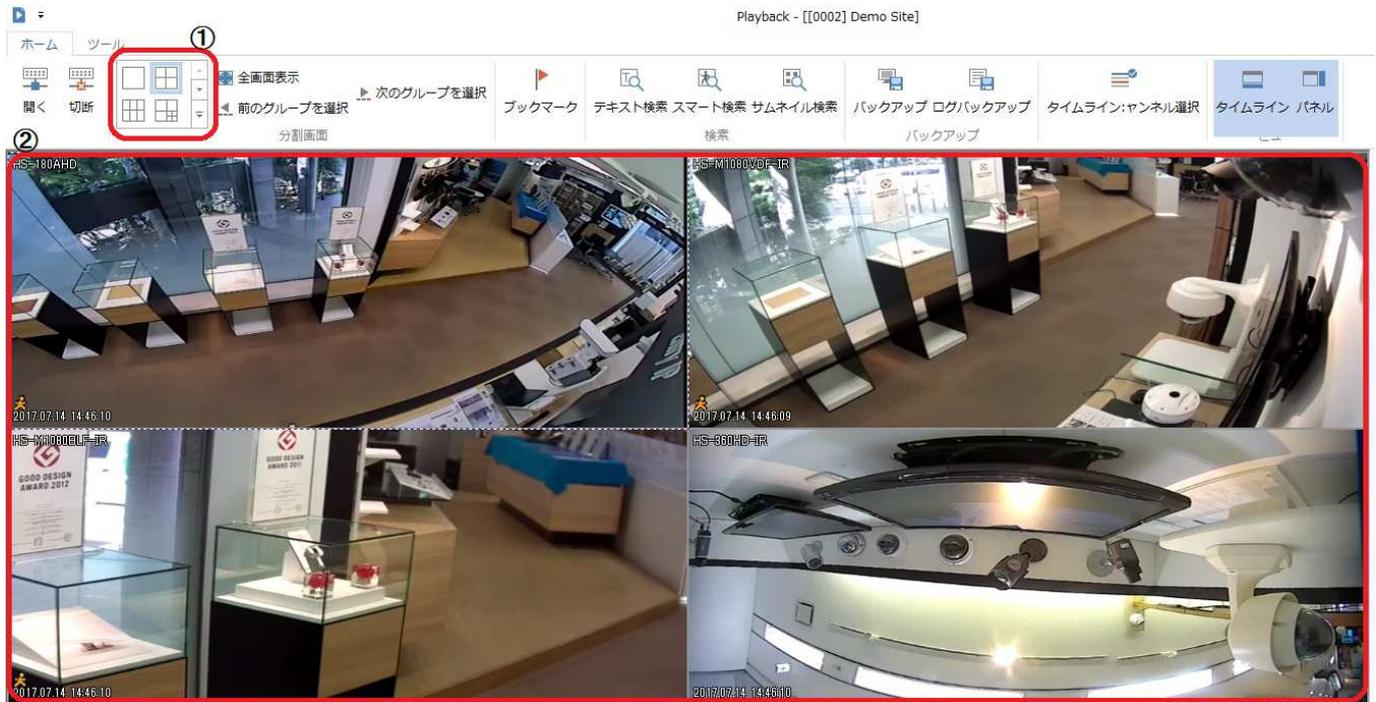
## 接続終了(切断)

一番上のツールバーの  [切断]アイコンをクリックするとDVRのHDD接続やユニット、バックアップファイルを閉じることができます。

## 基本のコントロール

### 画面分割モードの変更

1~16分割画面分割をサポートしており、①アイコンをクリックするか、ダブルクリックすることで画面分割モードを変更することができます。

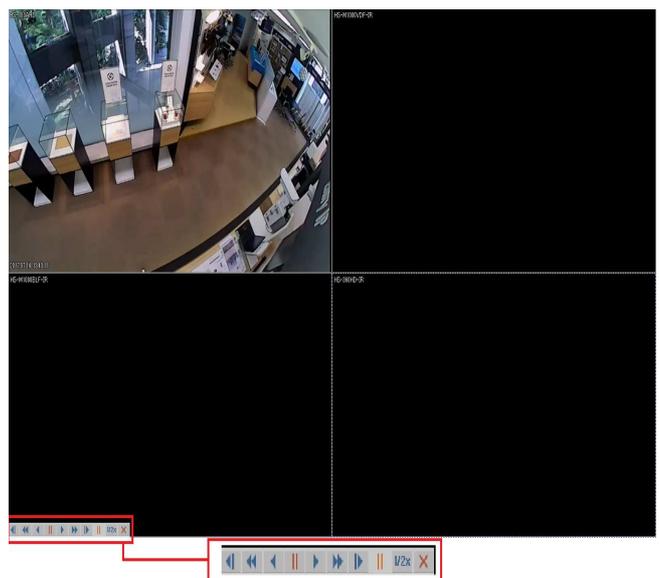


①分割アイコンをクリックすると、マルチ分割モードが表示されます。②特定のチャンネルをダブルクリックすると、シングルモードが表示されます。もう一度ダブルクリックすると、分割モードが前のモードに変更されます。

### 全画面モード

[フルスクリーンモード]アイコンをクリックすると、フルスクリーンモードを実行し、[ESC]ボタンで閉じることができます。

フルスクリーンモードの左ボタンに表示された再生コントロールボタンを使用することで、ユーザーは再生速度をコントロールすることができます。[X]ボタンをクリックすると、フルスクリーンモードが閉じます。



## 動画の位置の変更

ビデオ部分を移動するには、ビデオをマウスで選択し、ユーザーが望む位置にドラッグします。異なるモニター間の位置の変更も可能です。



1) マウスドラッグ①ビデオを②の位置にドラッグすると、①と②が相互に変更されます。

## ビデオウィンドウのポップアップメニュー

ビデオ上でマウスの右ボタンを押すとメニューが表示され、ユーザーは主な機能を使用できます。この操作は、選択したビデオにのみ適用されます。



Item	Description
1	ウォーターマークのチェック 元のデータが破損しているかどうかを表示します。
2	デジタルズーム シングルモードでは、マウスドラッグを使用してビデオを拡大でき、ミニマップをクリックするとズーム領域を変更できます。
3	ブックマーク ブックマークは、時間、チャンネルを保存し、メモを確認することが出来ます。 (ビューセットからの再生はむこうになります)

## バックアップ

登録されたユニットを検索、再生ビューアにアクセスし、記録されたデータやログ情報をバックアップします。また、DVRのHDDのバックアップファイルやファイルを開き、バックアップする特定のセクションを選択します。

### イメージバックアップ

バックアップにはEXE (RE4) とAVIタイプの2種類があります。RE4タイプは、イベント情報やその他の情報のバックアップとともにマルチチャンネルバックアップをサポートします。広く使用されているプレーヤーでのAVIバックアップサポート再生、XVID圧縮方式を使用した単一チャンネルのみ。プログラムの左側にあるコントロールパネルの  [バックアップ]アイコンをクリックして、"バックアップユーティリティ"を実行します。

# バックアップ

バックアップユーティリティ

① exe (re4 type)    avi (Xvid圧縮)

② 開始: 2017/07/18 14:24:54

終了: 2017/07/18 14:34:54

③ チャンネル: \*バックアップするチャンネルを選択してください  
すべて

④ ファイル分割: 分割しません 0 MB

⑤ ファイルパス表示: C:\Users\tech\Documents\Demo Site-20170718\_14:...

⑥ パスワード

パスワード再入力

⑦  音声を含むキャプション(バックアップに時間がかかります)

⑧ 追加    編集    削除    リセット

番号	サーバー-チャンネル	開始時刻	終了時間	サイズ分割	タイプ	ファイルのパス
00	Demo Site-[すべて]	2017.07.18 14:24:54	2017.07.18 14:34:54	分割しません	exe(re4)	C:\Users\tech\Documents\Demo Site

⑨

⑩ 開始

- 1) バックアップタイプを①から[exe]または[avi]を選択します。②でバックアップしたい時間を設定します。開始と終了の時間を選びます。
- 2) ③でバックアップしたいチャンネルを選択します。バックアップタイプを「avi」にした場合は1つのチャンネルしか選択できません。
- 3) ④では分割するファイルサイズを選択します。トータルのバックアップ容量が分割ファイルサイズより大きくなるとファイルが分割されます。
- 4) ⑤ではファイルの保存先とファイル名を変更することができます。 [...] ボタンをクリックして変更します。
- 5) ⑥ではバックアップのファイルをパスワードで管理します。最大14文字をパスワード設定可能です。
- 6) ⑦では音声のバックアップを選択します。「avi」バックアップの場合は選択したビデオに同期されている音声もバックアップされます。
- 7) 設定が終了したら⑧の [追加] ボタンをクリックしてこのバックアップを⑨バックアップリストに追加します。このリストにはバックアップ番号、サーバーチャンネル、開始・終了時刻、分割サイズ、バックアップタイプ、およびファイルパスが表示されます。
- 8) [開始] ボタンをクリックしてバックアップを開始します。バックアップ中は進捗状況のステータスバーが表示されます。バックアップが完了すると緑色に変わります。すべてのバックアップが完了するとポップアップウィンドウが表示されます。

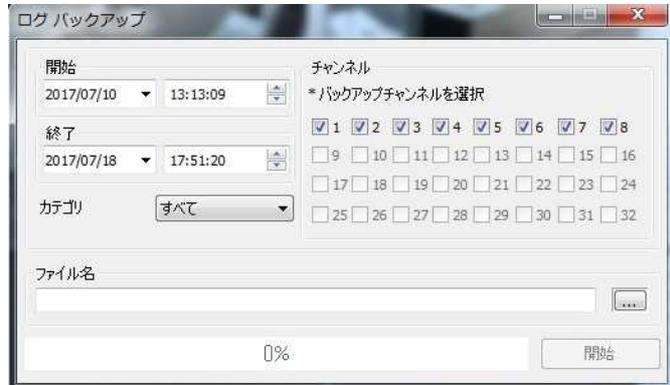
<注>

ブックマークリストは  アイコンをクリックすると表示され、ユーザーはブックマーク時間を選択できます。

## ログバックアップ

ログのバックアップは、CSVファイルでユーザーが選択したチャンネルごとに行うことができます。プログラムの左側にあるコントロールパネルの  [ログバックアップ]アイコンをクリックして、"バックアップユーティリティ"を実行します。

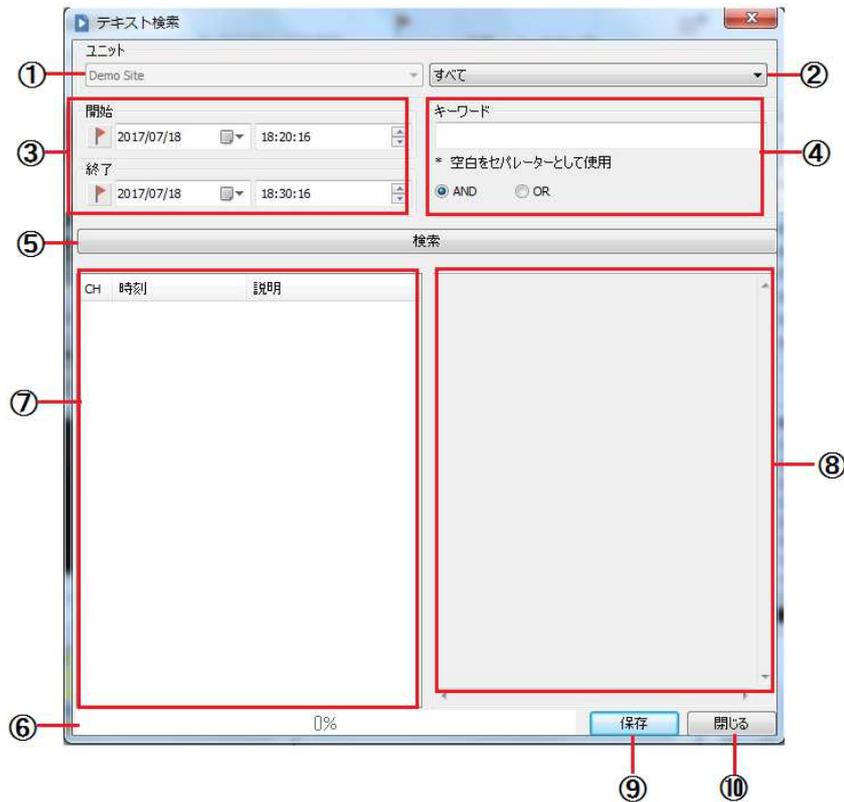
- 1) ログバックアップ画面で開始と終了の時刻を設定します。
- 2) バックアップさせたいチャンネルを選択し、カテゴリーからイベントの種類を選択します。
- 3) [...] ボタンでファイルの保存場所と名前を選択します。
- 4) ログファイルはCSV形式で保存され、[開始] ボタンをクリックして開始します。バックアップ処理はパーセンテージで表示されます。



## 検索

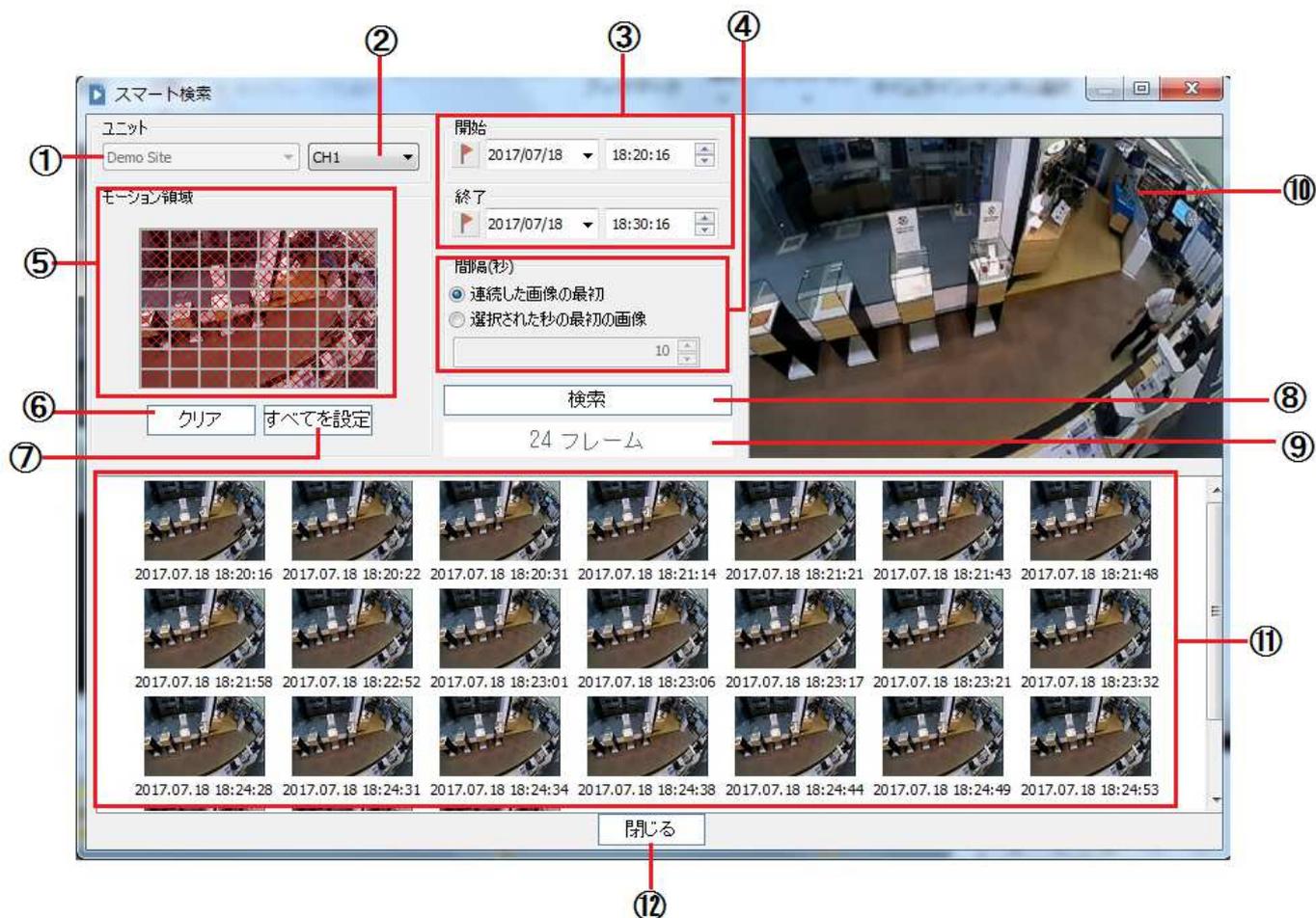
コントロールセンタープレイバックには様々な検索と再生ビューワーをサポートしています。テキスト検索は特定の時間に記録されたテキストを検索することができ、スマート検索は指定した領域で動きが検出された映像を検出することができ、サムネイル検索はユーザーが設定した時間間隔で検索を行うことができます。

### テキスト検索



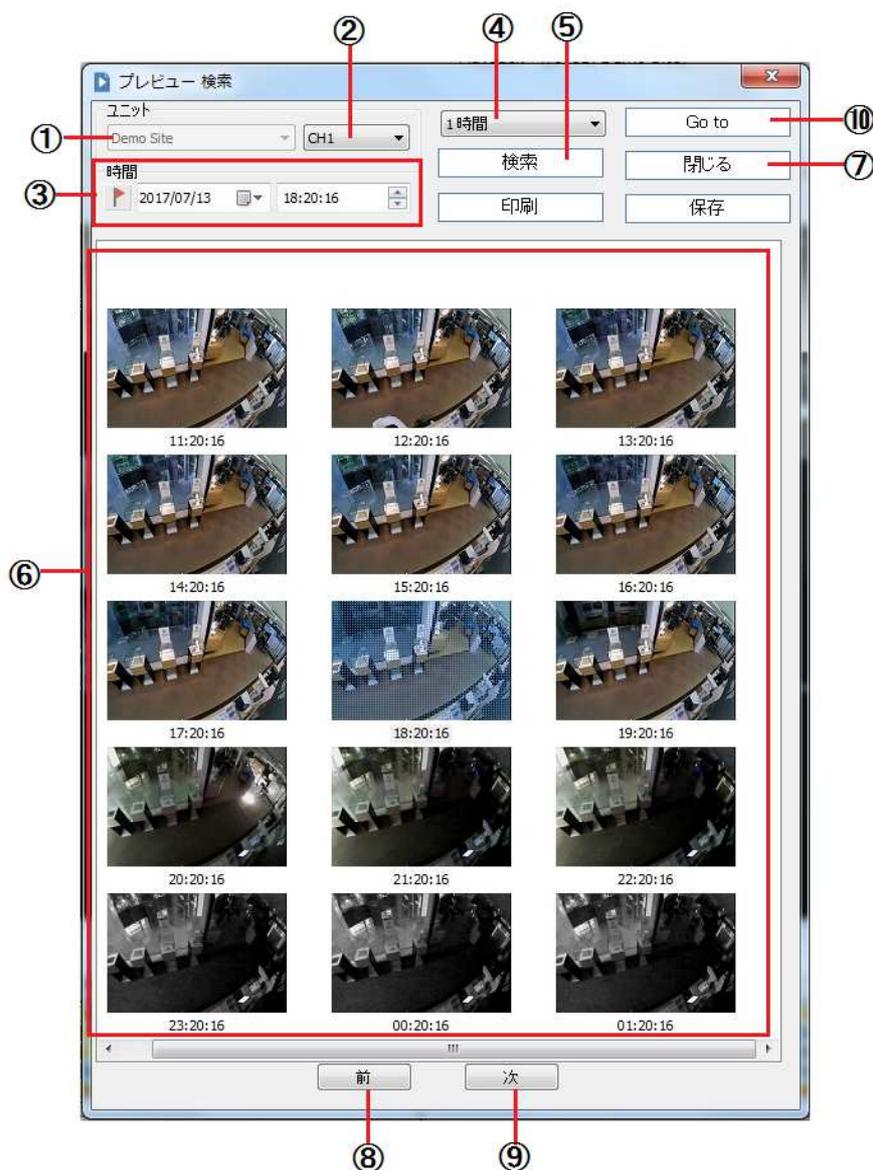
- 1) ①はテキスト検索ウインドウに接続したユニット名を表示します。
- 2) ②は検索チャンネルを指定し、③で開始と終了時刻を設定します。
- 3) ④でキーワード検索は可能ですが、キーワード検索したくない場合は空欄のままにして[検索]ボタンをクリックしてください。検索状況を表す⑥ステータスバーが表示され、検索が円満すると⑦検索された適すリストが表示されます。
- 4) テキストリストを選択すると、テキストの説明が表示されます。リストをダブルクリックしてタイムラインに移動し、テキストに関連する画像を表示します。
- 5) ⑨の[保存]ボタンをクリックすると、検索したテキストがTXTファイル形式で保存されます。⑩の[閉じる]ボタンをクリックするとテキスト検索を終了します。

## スマートサーチ



- 1) スマートサーチ画面で接続したユニット名を表示します。
- 2) ②検索チャンネルを選択し、③検索区間の開始時間と終了時間を設定します。このとき、開始時刻は終了時刻より後に設定しないでください。ユーザーによる設定が間違っていると、終了時刻が開始時刻よりも遅くなるように自動的に時刻が調整されます。
- 3) ④検索間隔を設定できます。「すべての画像を調べる」を選択すると、すべての画像の動画画像が検索され、「設定された時間間隔を調べる」を選択すると、設定された秒、時間の時間間隔で動画が検索されます。
- 4) ⑥モーション検知エリアを選択して、選択したエリアのモーションを含むセクションのみを検索し、⑤「モーション検知検索画像」を選択して、モーションとイベントのみで録画画像を検索し、検索速度を向上させます。
- 5) ⑦[クリア]ボタンをクリックしてモーション検知エリアをクリアし、⑧[すべて設定]ボタンをクリックしてモーション検知エリアをすべて選択します。
- 6) ⑨[検索]ボタンをクリックして検索を開始すると、⑩の検索状況が進行状況バーに表示されます。検索が完了すると、検索された画像フレームの数が表示されます。
- 7) ⑪検索した画像の一覧がサムネイルに表示され、サムネイルをクリックすると、画像がサムネイルに拡大表示されます。  
⑫検索した画像をクリックすると、記録された時間と再生画像に移動します
- 8) ⑬[閉じる]ボタンをクリックするとスマート検索が完了し、検索ウィンドウが閉じます。

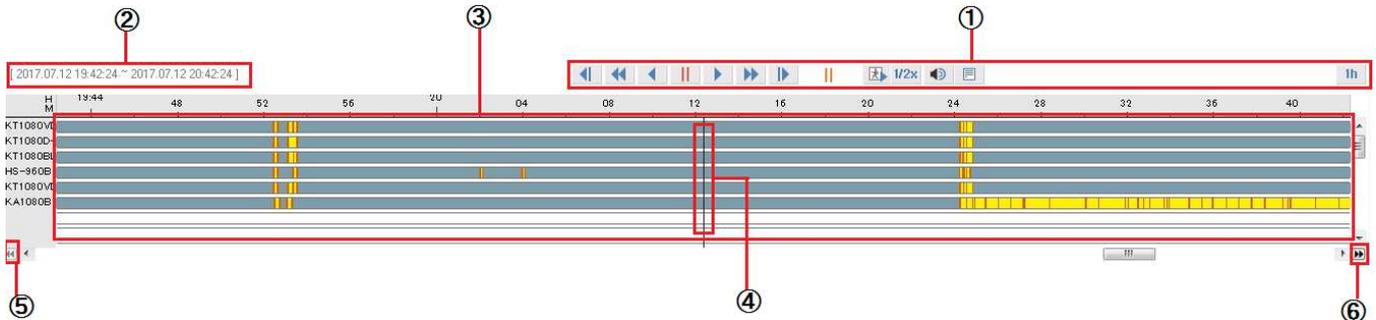
## サムネイル検索



- 1) サムネイル検索ウィンドウに①接続されているユニット名が表示されます。
- 2) ②検索チャンネルを選択し、検索区間の開始時刻を設定します。
- 3) ④検索間隔を設定し、⑤[検索]ボタンをクリックして検索を開始します。検索が終了すると、⑥検索画像リストがサムネイルで表示され、サムネイルをクリックすると、⑦ページプレビューウィンドウに画像が表示されます。
- 4) 再生制御ボタンを使って、瞬間の録画映像を再生することができます。検索結果は検索結果ウィンドウに表示された分だけ出力され、⑧[前]と⑨[次]ボタンをクリックすると検索が続けられます。
- 5) タイムラインをサムネイルの録画時間に移動し、⑩移動ボタンをクリックして即座に再生します。⑪検索時間範囲を設定し、[検索]ボタンをクリックすると、自動的に「スマート検索」を実行する設定検索時間範囲が入力され、接続検索が可能になります。
- 6) サムネイルを選択し、⑫[印刷]ボタンをクリックして印刷し、⑬[保存]ボタンをクリックすると画像が保存されます。
- 7) [閉じる]ボタンをクリックすると、サムネイル検索が終了し、検索ウィンドウが閉じます。

# タイムライン

タイムラインビューアは、通常の記録およびイベント記録セクションのグラフィック表示をサポートします。ユーザは、マウスを使用して優先セクションを選択することができ、このタイムラインウィンドウ内の再生に関する様々な機能及び制御を選択することができます。



- 1) タイムラインビューアの①再生・制御ボタンを使用して画像再生が可能です。再生・制御ボタンの説明は下の表を参照してください。
- 2) ②タイムラインに示されている検索区間の日時情報を表示しています。
- 3) タイムラインはグラフに表示され、④スライダーで検索セクションを選択すると再生が可能になります。タイムラインのログプロパティは、異なる色（グレー：通常レコード、黄色：動き検出、赤：センサ入力、オレンジ：プリイベント/ポストイベント、ワイン：テキスト）で分類されます。
- 4) ⑤ボタンをクリックすると、検索時間を1日前に、⑥ボタンを1日後に移動します。
- 5) タイムラインは移動した日付の時間に関する情報を再ロードして表示します。

## 再生ボタンの説明

Button	Description
	逆コマ送り
	逆再生
	一時停止
	再生
	コマ送り
	再生マークが赤になっているとイベントのみの再生/再生マークが青になっているとすべてを再生
	逆倍速/倍速 アイコンをクリックするたびにスピードが変わります。 1x, 2x, 4x, 8x, 16x, 24x, 32x, 64x.
	- ALL: ビデオの全てのフレームを最高速度で再生します。 再生速度はPCの性能とネットワークスピードに依存します。
	- 1/2: 1/2のスピードで再生します。
	- 1/4: 1/4のスピードで再生します。
	タイムラインに表示されるセクション（10分、30分、1時間、3時間、6時間、12時間、24時間）を選択できます。 タイムライン上に選択された時間の記録セクションをマークし、ログのロード状態を示すポップアップウィンドウが表示されます。タイムラインログがロードされている間、ユーザーはこれをキャンセルすることができます。

## ジャグ&シャトルの仕様

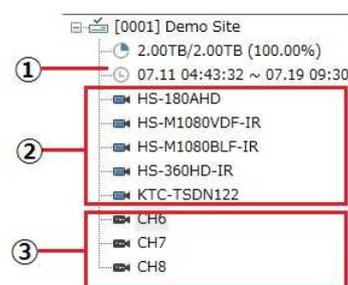
コントロールセンター再生はキーショートカットをサポートしており、接続されている各種コントローラがこのショートカットで再生を操作できます。キーショートカットを入力してジョグ&シャトルを制御するなどの再生制御のためのデバイスは、キーショートカットを設定することによって使用できます。

Key map			
Input	Value	Action	Key Value
Jog ジョグ	Clockwise	前方フレームプレイ	Alt+Shift+Right
	Counter-clockwise	後方フレームプレイ	Ctrl+Shift+Left
Shuttle シャトル	Move and center	1倍逆再生	Ctrl+Shift+`
	Left1	2倍逆再生	Ctrl+Shift+1
	Left2	4倍逆再生	Ctrl+Shift+2
	Left3	8倍逆再生	Ctrl+Shift+3
	Left4	16倍逆再生	Ctrl+Shift+4
	Left5	32倍逆再生	Ctrl+Shift+5
	Left6 or over	64倍逆再生	Ctrl+Shift+6
	Right1	2倍再生	Alt+Shift+1
	Right2	4倍再生	Alt+Shift+2
	Right3	8倍再生	Alt+Shift+3
	Right4	16倍再生	Alt+Shift+4
	Right5	32倍再生	Alt+Shift+5
	Right6 or over	64倍再生	Alt+Shift+6
	Buttons ボタン	Leftmost	逆フレーム再生
Left		逆再生	Alt+Shift+<
Center		一時停止	Alt+Shift+?
Right		再生	Alt+Shift+>
Rightmost		フレーム再生	Alt+Shift+Right

## 記録間隔とチャンネル表示

現在、接続されているディスクの録画間隔と有効なチャンネルを表示します。選択したチャンネルのみが再生されます。

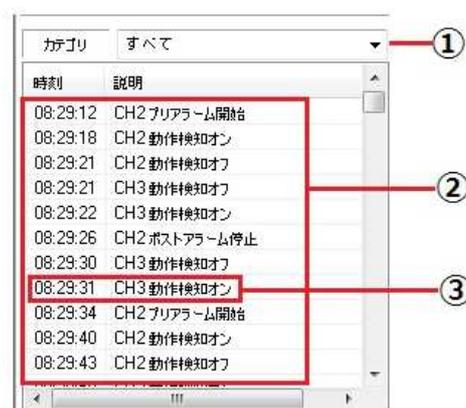
- ① 記録されているデータの開始と終了時刻を表示します。
- ② 再生を選択したチャンネルを表示します。
- ③ 選択されていないチャンネルを表示します。



## ログビューワー

ログビューワーのタイムラインにロードされたセクションを検索するためのログリストがあります。選択したチャンネルのログ情報が表示され、カテゴリを選択することができます。ログリストのログをダブルクリックすると記録されたデータに移動し再生することができます。

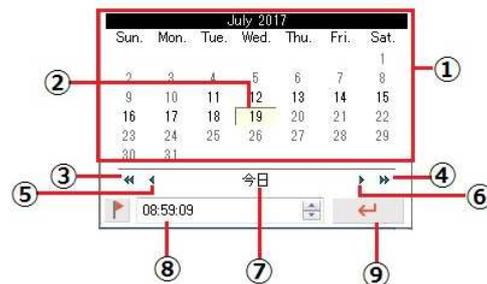
- ① ログビューワーウィンドウのタイムライン上にロードされたセクションのログリスト②があります。
- ② ①カテゴリでモーション/センサー/テキストなど項目を選択し、リストに表示させることができます。
- ③ リスト上の1つを選択し、ダブルクリックするとその画像が再生されます。



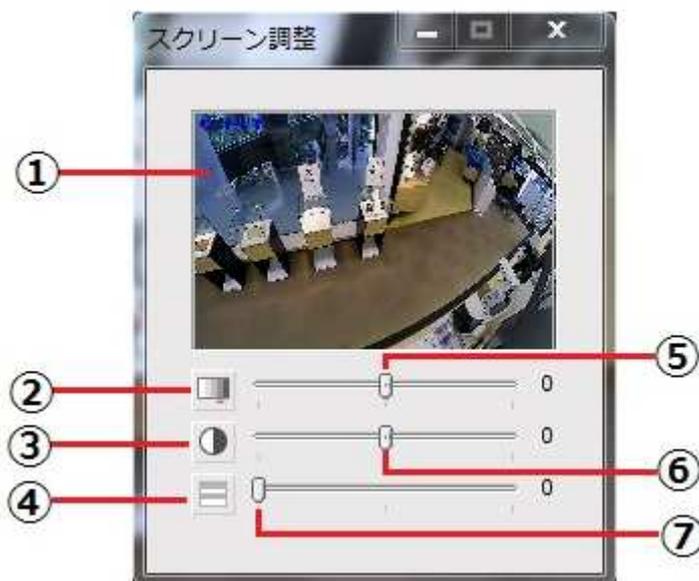
## カレンダーサーチ

録画データがある日付は太字で表示されます。日付を選択し、再生させたい時刻を入力します。

- 1) カレンダーが表示で録画データがある日付は太字で表示されます。ユーザーは再生したい日付を選択します。選択すると②のような表示になります。
- 2) ③前の年、④次の年に移動するボタンです。⑤前の月、⑥次の月に移動するボタンです。⑦は今月のカレンダーに移動します。⑧は時間を入力します。
- 3) ⑧で時間を入力し、検索するには⑨【↵】ボタンをクリックします。



## イメージコントロール



Item	Description
1	ビデオ映像 ビデオチャンネルを表示します。
2	デフォルトの明るさ 明るさがデフォルト値に変わります。デフォルト値は0です。
3	デフォルトのコントラスト コントラストがデフォルト値に変わります。デフォルト値は0です。
4	デフォルトのデインタレース デインタレースはデフォルト値に変わります。デフォルト値は1です。 (この機能は、入力ビデオがインタレースビデオの場合のみ有効になります。)
5	明るさのコントロールバー ビデオの明るさを制御します。使用可能な範囲は-100~100です。
6	コントラストのコントロールバー ビデオのコントラストを制御します。使用可能な範囲は-1000~1000です。
7	デインタレースのコントロールバー デインタレース機能を制御します。0はインタレース解除を意味し、使用可能な範囲は0~100です。

# イメージコントロールの例

	Item	Description
デフォルト		
明るさ		
		
コントラスト		
		

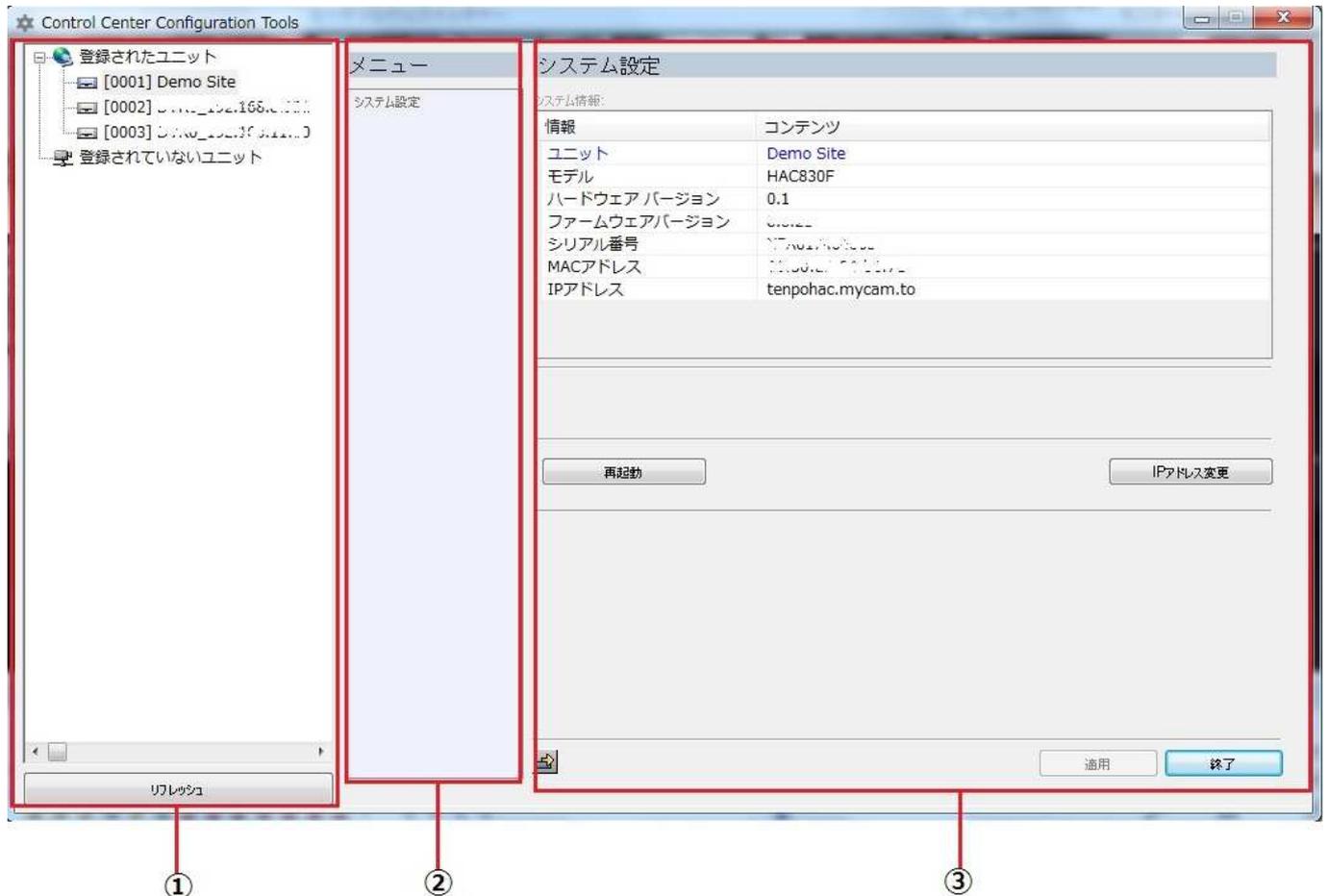
デインタレース



## 設定ツール

コントロールセンターに登録するか、ローカルネットワーク経由で接続されたユニットに設定することができます。効果的かつ統合された管理をサポートするWESPプロトコルを持つすべてのユニットに使用できます。

## 画面の構成

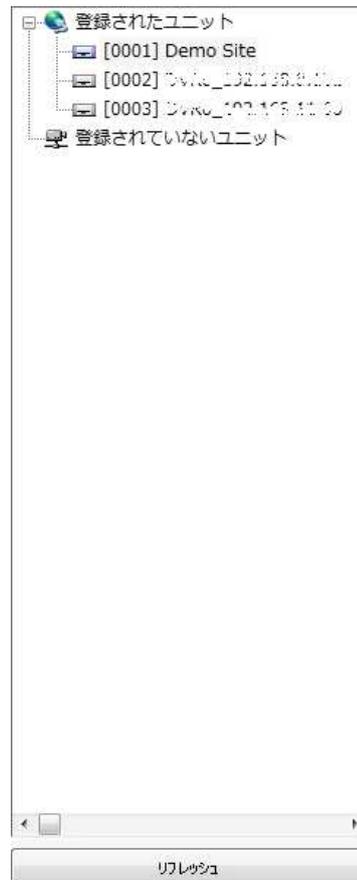


Item	Description
1 ユニットリストウィンドウ	ユーザーのアカウントに登録されているユニットを表示します。ユニットをクリックしてアクセスしてください。
2 メニューウィンドウ	メニューの一覧を表示します。 それをクリックしてメニューに接続します。 接続されたモデルに基づいて、メニューの表示方法が異なります。
3 システムウィンドウ	選択したメニューの設定情報を表示し、設定値を変更することができます。 各項目の設定の詳細については、各モデルのユーザーガイドを参照してください。

## ユニットコネクション

ライブ視聴者の「登録済みユニット」に登録されているユニットリストを共有します。「Registered Units」に登録されていないユニットに接続する場合は、認証処理が必要です。

- 1) ユニット一覧画面の「登録済みユニット」に既に登録されているユーザセレクトユニットを使用すると、ユニットにアクセスすることができます。「登録されていないユニット」に登録されているユーザ選択ユニットを使用すると、パスワードを要求するウィンドウがポップアップし、入力されたパスワードが承認されるとユニットにアクセスできます。
- 2) ユニットにユーザーがアクセスすると、ユニットのメニューがメニューウィンドウに表示されます。(DVRの機種によっては表示されず別ウィンドが表示されます。)
- 3) [リフレッシュ]ボタンをクリックしてユニットリストを更新します。



## UIの使用

DVRのFWバージョンが4.x.x以上のユニットに接続すると、DVR本体のメニューOSDと同じUIが提供されます。

このUIを使用するには、追加のプラグインが必要ですが、ユニットに接続すると自動的にダウンロードされインストールされます。

構成方法の詳細については、各製品の取扱説明書を参照してください。

※PCの設定によりプラグインまたはインストールが制限される場合があります。その際は、許可をしてください。

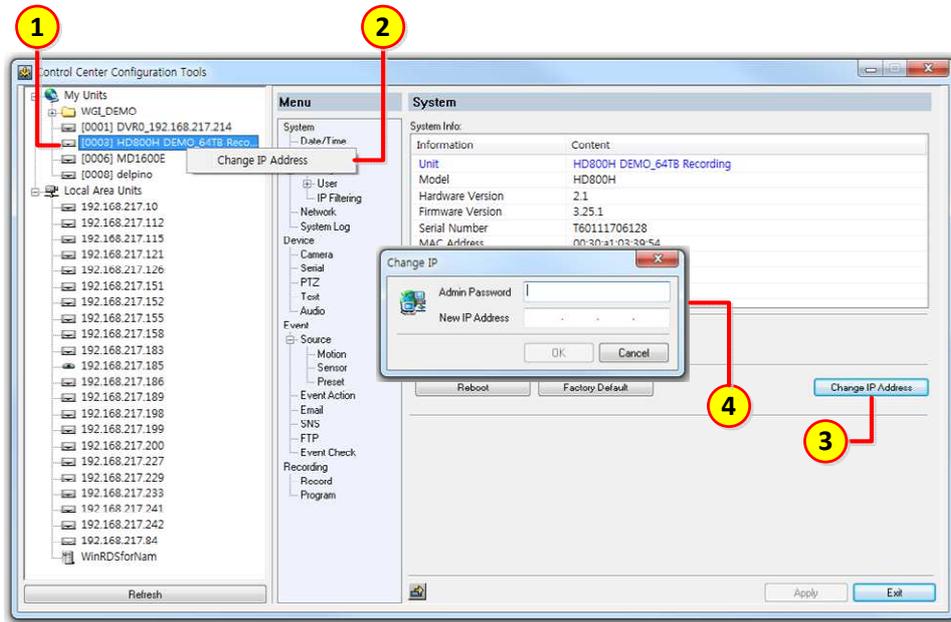


### <注意>

1. UIは、v4.x以上のFWバージョンの製品でのみサポートされます。
2. UIを実行できない場合は、「C : ¥ProgramData¥Digital Image World¥Control Center¥config」の下のファイルとフォルダを削除して、もう一度やり直してください。

## 基本機能①

### IPアドレスの変更



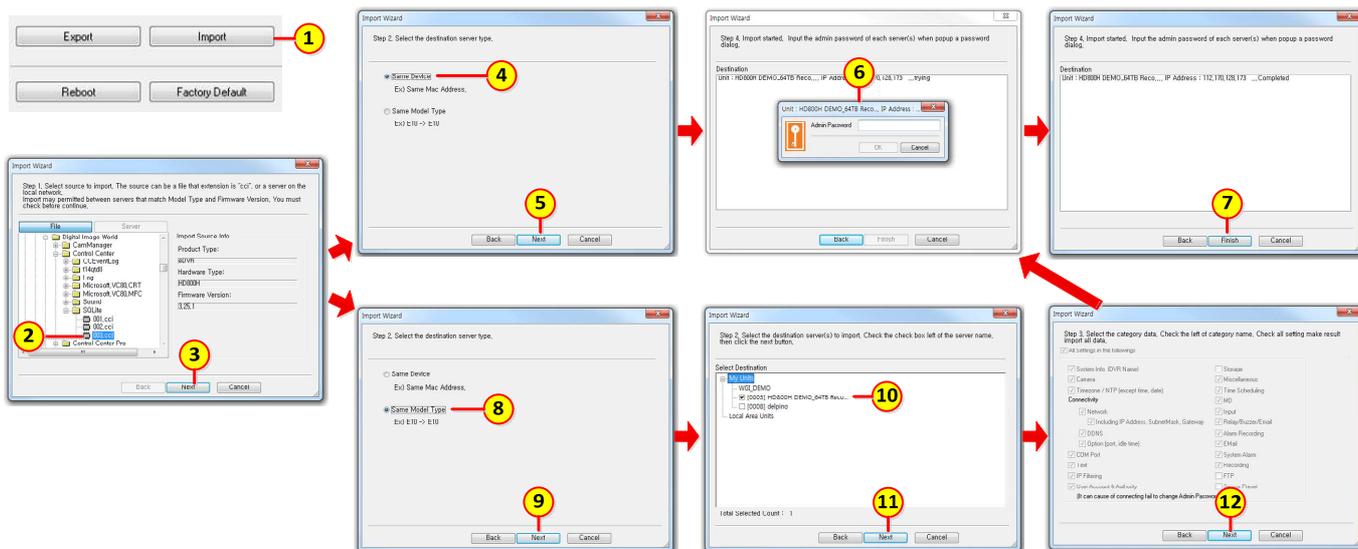
- 1) ユニット一覧画面で①ユニットを選択し、ポップアップメニューの②[IPアドレス変更]をクリックするか、コンフィグレーションウィンドウのシステム情報メニューの[IPアドレス変更]を右クリックしてから、④IP変更ウィンドウがポップアップします。変更する管理者のパスワードとIPアドレスを入力し、[OK]ボタンをクリックしてIPアドレスを変更します。

### ユニットの設定をエクスポートする



- 1) 設定画面で①[エクスポート]ボタンをクリックすると、②"別名で保存"の画面が表示されます。保存場所を選択し、ファイル名を入力して[保存]ボタンをクリックすると、その場所にファイルが保存されます。

## ユニットの設定をインポートする



### 同じデバイスの設定をインポートする

- 1) 設定画面で①[インポート]ボタンをクリックし、インポートウィザードを起動します。②「エクスポート」として保存したファイルを選択し、③[次へ]ボタンをクリックします。
- 2) 手順2で④[同じデバイス]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。
- 3) ステップ4に進み、⑥ "admin password"を尋ねるポップアップウィンドウが表示されます。パスワードを入力し、[OK]ボタンをクリックすると設定のインポートが開始されます。
- 4) ⑦[完了]ボタンをクリックすると設定のインポートが完了し、ウィンドウが閉じます。

### 同じファミリー製品の設定をインポートする

- 1) 設定ウィンドウで①[インポート]ボタンをクリックすると、インポートウィザードウィンドウが表示されます。②「エクスポート」として保存したファイルを選択し、③[次へ]ボタンをクリックします。
- 2) 手順2で⑧[同一機種タイプ]を選択し、⑨[次へ]ボタンをクリックします。構成を採用する場合は⑩unitを選択し、⑪[次へ]ボタンをクリックします。
- 3) 手順3に進み、表示された構成を採用する項目があります。⑫[次へ]をクリックして手順4に進みます。
- 4) ⑬「admin password」ウィンドウが表示されます。パスワードを入力し、[OK]ボタンをクリックすると設定のインポートが有効になります。
- 5) ⑭[完了]ボタンをクリックすると設定のインポートが完了し、ウィンドウが閉じます。

## ユニットの再起動と工場出荷時のデフォルト

ユニットの再始動およびユニットの工場出荷時のデフォルトは、構成ツールで制御できます。工場出荷時の設定が完了すると、すべての設定値が復元されないため、設定のエクスポート機能を使用して設定値を保存することをお勧めします。

- 1) コンフィグレーションウィンドウで①[Reboot]ボタンをクリックし、[Apply]ボタンをクリックしてユニットを再起動します。
- 2) ②[工場出荷時の設定]ボタンをクリックし、[適用]ボタンをクリックすると工場出荷時の状態になります。



## ツリーを隠す

🗑️アイコンをクリックするとユニットリストウィンドウが非表示になり、🗑️アイコンに変換されます。もう一度🗑️アイコンをクリックするとユニットリストウィンドウが再び表示されます。

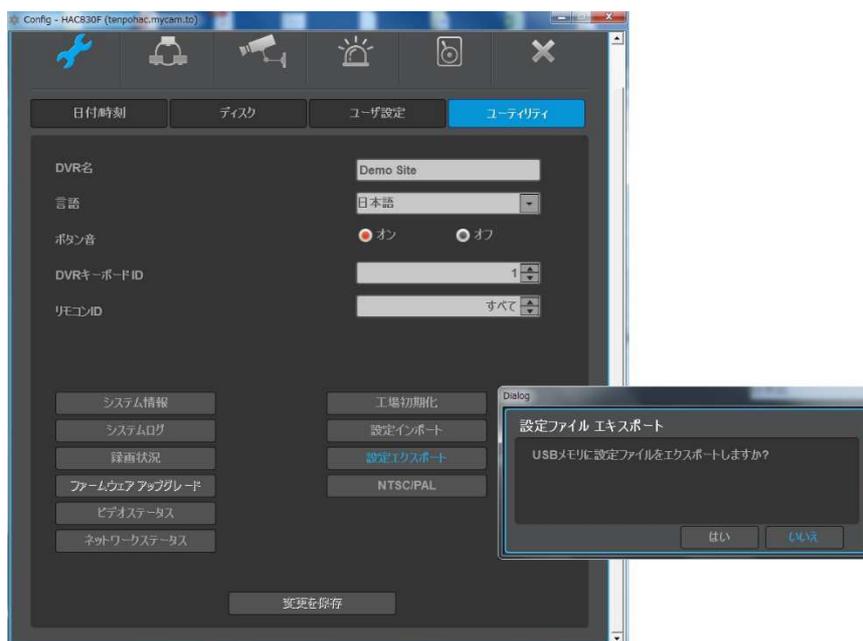
## 基本機能②

### IPアドレスの変更



- 2) 変更したいユニットをクリックするとDVRと同じ設定画面が表示されます。ネットワークをクリックし、IPアドレスを変更してください。設定変更が終わったら、[変更を保存] ボタンをクリックしてください。この変更を保存しないと設定が反映されません。  
※IPアドレスを変更すると接続が切れます。

### ユニットの設定をエクスポートする



- 2) 変更したいユニットをクリックするとDVRと同じ設定画面が表示されます。システム→ユーティリティで「設定エクスポート」ボタンをクリックします。「USBメモリに設定ファイルをエクスポートしますか?」と表示が出ますが、「はい」をクリックします。すると、ファイルを保存場所を指定するウィンドウが出てきますので、保存する場所を設定します。設定画面で①[エクスポート]ボタンをクリックすると、②"別名で保存"の画面が表示されます。保存場所を選択し、ファイル名を入力して[保存]ボタンをクリックすると、その場所にファイルが保存されます。

## ツール

### スケジュールのバックアップ

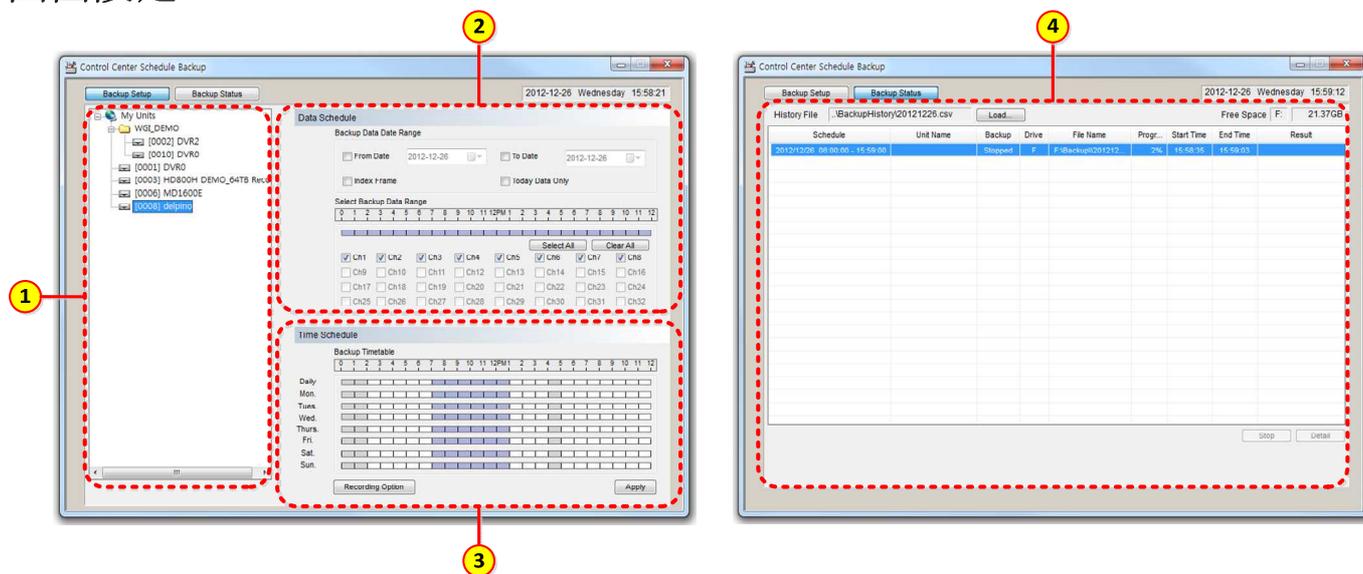
DVRまたはWinDVRsの記録データは、スケジュールバックアッププログラムによってPCにバックアップすることができます。管理者アカウントのみがスケジュールバックアップを使用できます。

スケジュールバックアップの予約が可能で、予約されたスケジュールで自動的に実行されます。スケジュールバックアッププログラムをバックグラウンドで実行してバックアップを実行する必要があります。コントロールセンターが正しくインストールされている場合、スケジュールバックアップは自動的に登録され、PCの起動後に実行されます。スケジュールバックアップは、1台のPCで1台のみで同時に動作し、1台につき1台の管理者しかバックアップを予約できません。作成したバックアップファイルは、コントロールセンターの再生プログラムで再生することができます。

#### <Note>

1. スケジュールバックアップPCとDVRは同じタイムゾーンを持つ必要があります

### 画面設定

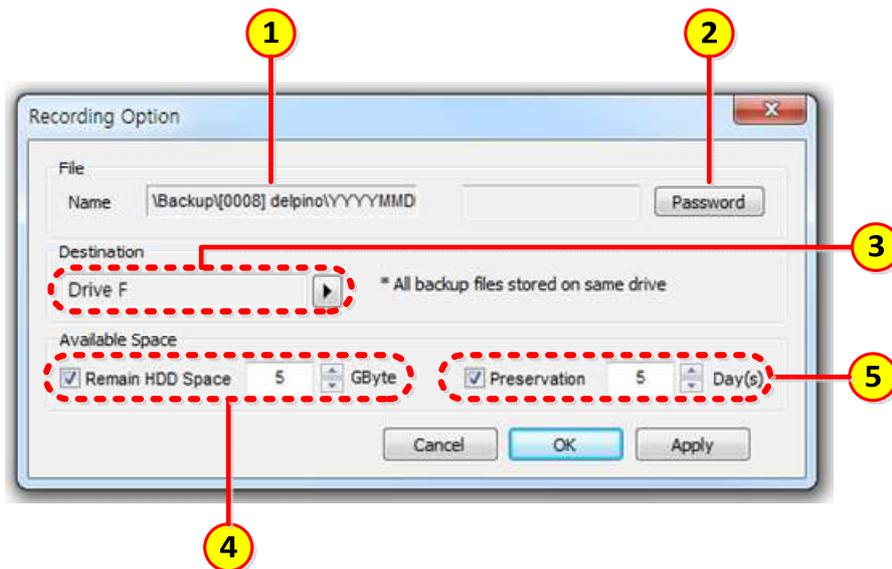


Function	Description
1 ユニットリスト	ユニット一覧が表示され、クリックでユニットに接続することができます。
2 バックアップデータ設定ウィンドウ	バックアップするチャンネル、バックアップ期間を設定することができます。
3 バックアップスケジュール設定ウィンドウ	タイムスケジュールを設定します。同時に1台のユニットしか設定できません
4 バックアップ状態ウィンドウ	バックアップの進行状況と完了状態が表示されます。ユーザーは、履歴ファイルを開いて詳細を日付で確認できます。

## バックアップの設定

### 録画オプション

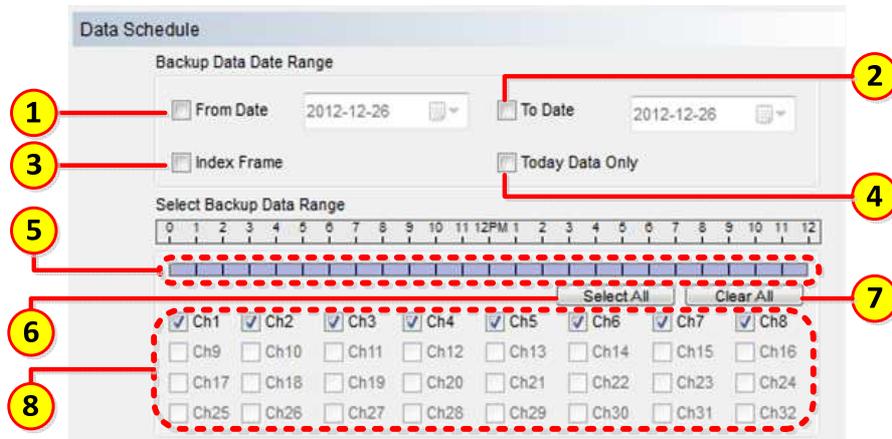
バックアップファイルを保存するドライブ、バックアップファイルのパスワード、最小HDDスペースの節約、バックアップファイルの保存期間を設定することができます。ドライブ設定はすべてのユニットに適用されますが、他の設定は各ユニットに別々に適用されます。[録画オプション]ボタンをクリックすると、録画オプション画面が表示されます。



Item	Description
1	ファイルパスと名前 バックアップファイル名とパスは自動的に決定され、ユーザーが変更することはできません。記録パスは / Backup / Unit name / であり、ファイル名は YYYYMMDD_HH_MM_SS として割り当てられます。ユニット名を変更すると、記録パスも変更されるので注意してください。
2	パスワード ユーザーはバックアップファイルにパスワードを割り当てることができます。デフォルトの条件にはパスワードがないので、パスワードを作成する場合は、現在のパスワードを空白のままにしなければなりません。パスワードで保護されたファイルは、適切なパスワード入力後に再生できます。
3	録画ドライブ ユーザーは、バックアップファイルを保存するドライブを割り当てることができます。選択したドライブは「ドライブC、D」と表示されます。ユーザーは複数のドライブを同時に割り当てることができ、このドライブ設定はすべてのユニットに適用されます。
4	使用可能なHDDスペース 十分なスペースがない場合、古いバックアップファイルは自動的に上書きされます。ユーザーがGB単位で保持するために最小ディスク領域を割り当てる場合、バックアッププロセスによって領域が保持されます。使用可能な範囲は1~100GBです。
5	保存 ユーザーはバックアップファイルを保存する期間を割り当てることができます。期間経過ファイルは自動的に削除され、使用可能な範囲は1~365日です。保持期間は、バックアップファイルの最初のフレームの記録時間によって計算されます。

## バックアップデータの設定

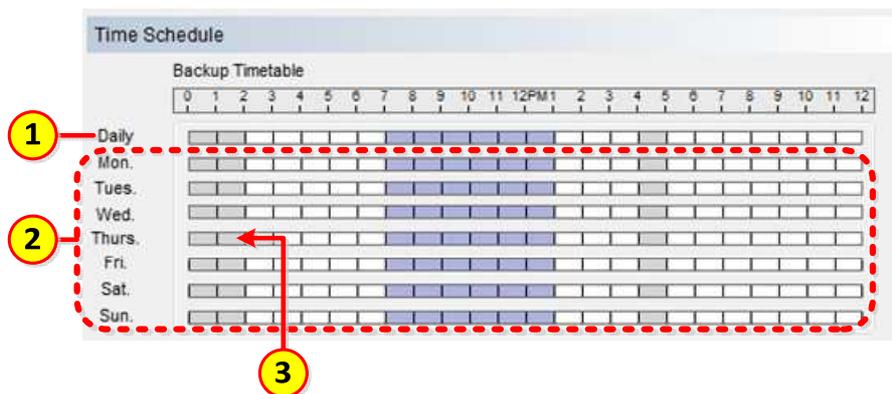
さまざまなバックアップ設定を構成できます。ユーザーはバックアップ期間、チャンネル、日付、時間、および各ユニットごとにインデックスフレームバックアップを使用するかどうかを決定できます。



- 1) バックアップ期間は、ユニットに記録されている日付に基づいて設定されます。「From Date」①をチェックすると、日付入力ボックスが有効になり、バックアップの開始データを割り当てることができます。
- 2) 「To Date」②をチェックすると、日付入力ボックスが有効になり、指定した日付までバックアップが実行されます。③「索引フレーム」③をチェックすると、索引フレームのみがバックアップされます。「今日のデータのみ」④をチェックすると、今日の記録データのみがバックアップされます。
- 3) バックアップデータの範囲は1時間単位で設定できます。白いブロックはバックアップが割り当てられていないことを意味し、白いブロックをクリックすると青色に変わります。[すべて選択]ボタンをクリックすると、24時間すべてが選択され、[すべてクリア]をクリックすると、割り当てられた時間がすべてクリアされます。
- 4) ⑧バックアップ可能なチャンネルのみ有効となり、バックアップしたいチャンネルを確認することができます。

## バックアップスケジュールの設定

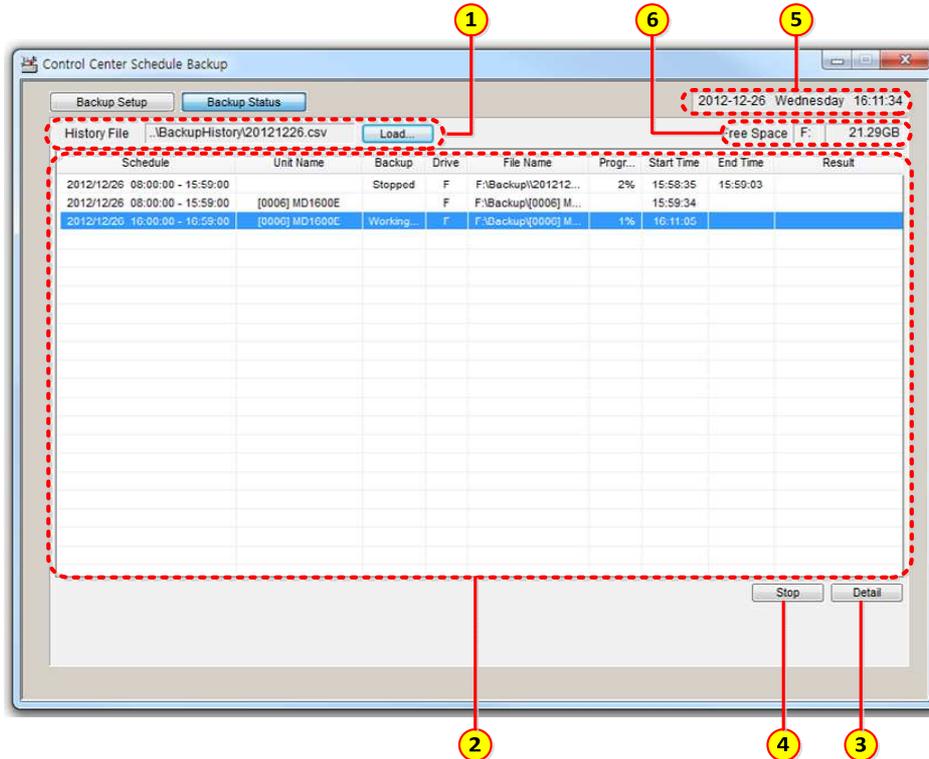
バックアップスケジュールはPCで設定できます。スケジュールが既にユニットによって占有されている場合、そのスケジュールは別のユニットによって共有することはできません。

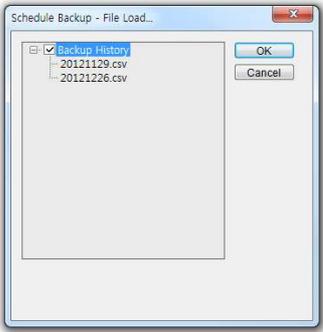
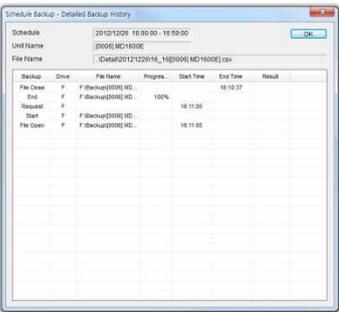


- 1) バックアップ時間表で白いブロックはバックアップが割り当てられていないことを示し、青色のブロックは別のユニットのバックアップに割り当てられていることを示します。白いブロックをマウスで選択すると、青色になり、割り当てられたバックアップスケジュールが表示されます。
- 2) ①「毎日」を選択すると、すべての曜日が同時に変更されます。その方法の代わりに、毎日の時間を選択することができます。既に割り当てられたバックアップブロックは青色で表示され、マウスをブロックに移動するとツールチップにそのユニットの名前が表示されます。

## バックアップの状態

[バックアップ状態]ボタンをクリックすると、バックアップの詳細が表示されます。完了または継続中のバックアッププロセスがすべて表示され、履歴ファイルを開くことによって詳細を取得できます。



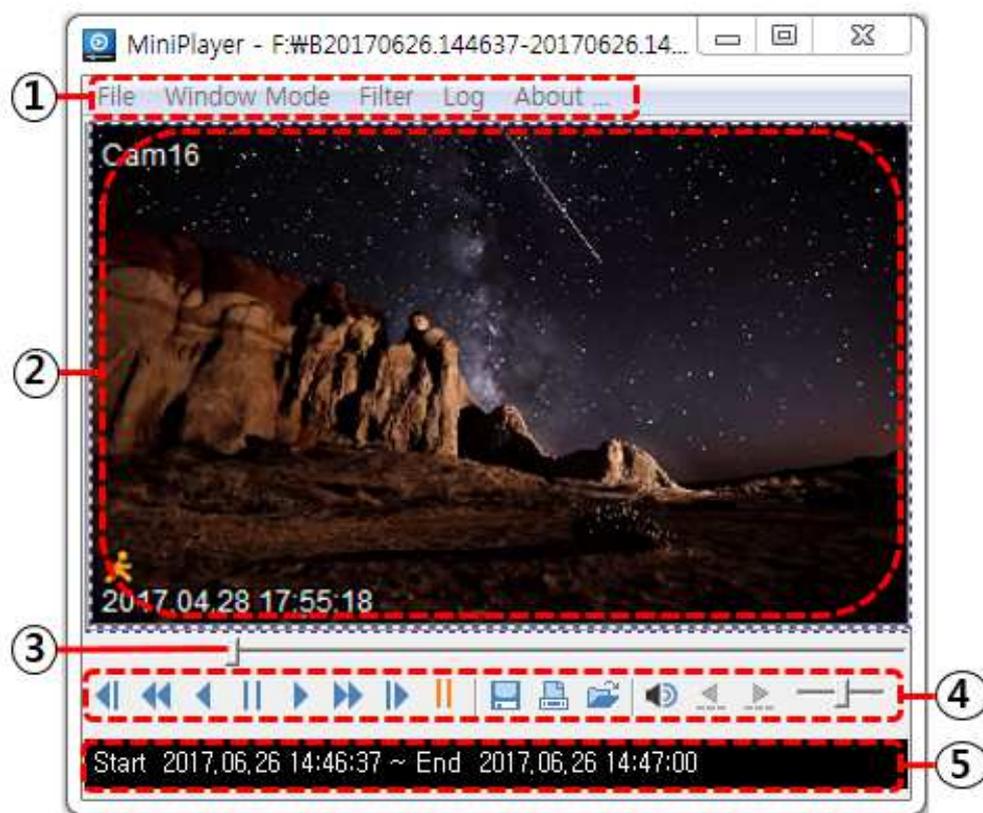
Item	Description
1	<p>履歴ファイル</p> <p>履歴ファイルのファイルパスとその名前が表示されます。</p> <p>日付を選択することによって、詳細を得ることができます。</p> 
2	<p>バックアップリスト</p> <p>すでに完了している、または進行中のバックアップのバックアップ状態が表示されます。</p>
3	<p>詳細</p> <p>バックアップリストを選択すると、詳細を確認できます。バックアップスケジュール、ユニット名、ファイル名が表示され、バックアップの進捗状況が段階的に確認できます。</p> 
4	<p>停止</p> <p>バックアップを停止します。別のスケジュールがある場合、次のバックアップが開始されます。</p>
5	<p>日付/時間</p> <p>日付と時間が表示されます。</p>
6	<p>バックアップディスク情報</p> <p>バックアップディスクとその空きディスク容量を示します。</p>

## トレイアイコン

PC起動後、スケジュールバックアッププログラムが自動的に実行され、トレイウィンドウにアイコンが表示されます。バックアップの進行中、アイコンに赤色のマーキングが表示されます。このアイコンが表示されている場合、スケジュールバックアップはバックグラウンドプログラムとして実行されます。ポップアップメニューを開くには、マウスの右ボタンをクリックしてください。スケジュールバックアッププログラムを終了または設定することができます。

## ミニプレーヤー

MiniPlayerはRe4ファイルを再生できます。これは、ユーザーがコントロールセンターをインストールできない場合に便利なので、ビデオバックアップを作成したときに、このMiniPlayerを使用すると簡単に再生できます。MiniPlayerの実行後、"開く"ダイアログボックスが自動的に実行され、再生したいRe4ファイルを選択することができます。

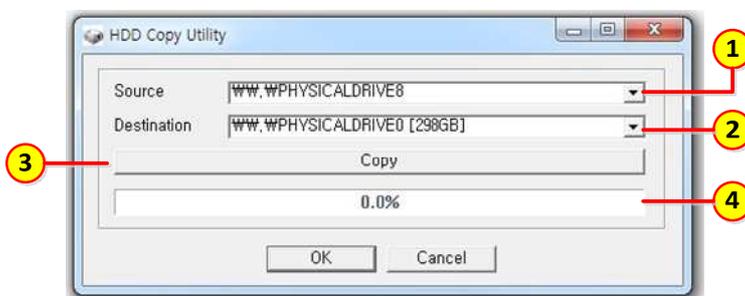


	Item	Description	
1	メニュー	ファイル	ファイルを開く、またはプログラムを閉じる。(開く/閉じる)
	ウィンドウモード	画面の分割数を変更します。(1/4/9/16チャンネル)	
	フィルター	ディインターレースモードを有効にすることができます。 インターレース解除モードは、D1解像度のビデオを再生する場合にのみ機能します。(インターレース解除/スクリーン調整)	
	ログ	ログビューアーを開きます。ログはビデオ画像と共に記録されます。(ログビュー)	
	...について	バージョンや著作権等のソフトウェア情報を表示します。	
2	ディスプレイウィンドウ	ビデオを再生します。	
3	タイムライン	スライダーバーで再生ポジションを動かせます。	
4	再生、画像の保存、印刷、音声、	 ボタンをクリックすることで再生方法を変更できます。 (戻る/逆再生/ポーズ/再生/進む)	

チャンネルの変更 ボタン		現在の画像をJPEG、BMP形式で保存します。 キャプション、名前、日付/時刻、イベント情報はオプションで保存できます。
		現在のイメージを印刷します。 画像、チャンネル名、録画時間、イベント情報とともにキャプションにメモを追加することができます。
		ダイアログボックスを開いてファイルを選択できます。
		音声のオン/オフ
		他にチャンネルがあれば、このボタンで前/後に移動できます。
		音声ボリュームの調整。
5	ファイルの録画間隔	選択したファイルの開始日時情報を表示します。

## DVR HDDマネージャ

DVRのハードディスクをPCに接続し、そのデータをコピーすることができます。この方法は、ディスク全体をバックアップする場合に使用します。これはバックアップを実行する最も速い方法です。



Item	Description
1	ソース オリジナルソースデータをどこに保存するかディスクを選択します。
2	行き先 コピーしたデータをどこに保存するかディスクを選択します。 オリジナルディスクより空き容量のあるディスクを選択して下さい。
3	コピー コピーボタンを押すと、コピーを続行するかどうかを尋ねるポップアップウィンドウが表示されます。 管理者のパスワードを入力すると、コピーが開始されます。
4	プログレッシブバー コピーの進行状況を表示します

# Specifications

	Standard   スタンダード	Professional   プロフェッショナル
<b>GENERAL 一般</b>		
Max. Unit	1024	
Max. Monitor(View)	2	6
Max. Supported Division	1 / 4 / 9 / 13 / 25 / 36 / 49 / 64	
H/W Support	HD Series DVR, LH/EH/MH Series DVR, MD Series DVR, MPEG-4 WebEye Series, NVS04S, WinDVRs, WinRDS	
Video Format	H.264 / MPEG4 / JPG	
Audio Format	ADPCM / Truespeech / G.723	
User Management	YES	YES Manage Units, Monitor by user separately
Account Level	YES	
Max account	100	
WNS (DDNS)	YES	
WRS (Dynamic IP Registration Server)	YES	
<b>MONITOR モニター</b>		
Performance	6 HD 1080p30	12 HD 1080p30
Real-Time Audio	YES	
Remote PTZ Control	YES	
Remote I/O Control	YES	
Save snapshot image	YES	
Quick Recording	YES	
Alarm Log Viewer, Save/Search Event List	YES	
Auto Action	YES Alarm Popup, Buzzer	YES Alarm Popup, Buzzer, Latch Window, Relay, e-Mail, Preset, Recording, Save image
Rule based auto action	NO	YES
Error Management (Latch Function)	NO	YES Item of errors to be managed are selectable freely
Action Log	NO	YES User action, auto action
Log Save	YES	
Status Viewer	YES	
Auto Connection (Lost & Recovery)	YES	
Watermark	YES	
Keyboard Shortcuts	NO	YES
Joystick (WKC-100)	NO	YES
View Set (group)	YES	
Map	YES	YES Sub Map, Map Link
<b>PLAYBACK 再生</b>		
Playback	YES	
Backup (re4, avi)	YES	
Log Viewer	YES	
Timeline display(log) Timeline index search	YES	
Go to a certain time Calendar search	YES	
Playback event image	YES	
Speed playback(0.5~64x)	YES	
Smart Search	YES	
Thumbnail Search	YES	

	<b>Standard</b> <b>スタンダード</b>	<b>Professional</b> <b>プロフェッショナル</b>
Text Search	YES	
Snapshot / Print	YES	
Zoom in/out image	YES	
Brightness/Contrast		
Audio play	YES	
Fix Layout	NO	YES
<b>UTILITY ユーティリティ</b>		
Schedule Backup	YES	
DVR HDD Manager	YES	
File Converter (eye to bmp, rec to avi...)	YES	
<b>System Requirement システム要求</b>		
Recommended	Intel Core i5 3.0GHz, 8GB RAM, 1024MB PCI-E Graphic Card Support AGP Accelerate, Support PCI-E 16x of higher, 100/1000 Ethernet NIC, Sound Card	
OS	Windows 7(x64), Windows 8(x64), Windows 10(x64)	

---

## Open Source License Report on the Product

---

The software included in this product contains copyrighted software that is licensed under the GPL/LGPL. You may obtain the complete Corresponding Source code from us for a period of three years after our last shipment of this product by sending email to <mycctv@gmail.com >.

If you want to obtain the complete Corresponding Source code in the physical medium such as CD-ROM, the cost of physically performing source distribution might be charged.

**LGPL** : Miniplayer.exe, WespMonitor.dll, WespPlayback.dll, WESPRecorder.dll  
**BSD License** : Configuration.dll, AuthCodeGenerator.lib, UserManager.dll, libcdkey.lib, XCrashReport.exe  
Copyright (c) 1998-2000 University College London  
All rights reserved.

### GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2.1, February 1999

Copyright (C) 1991, 1999 Free Software Foundation, Inc.  
51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA  
Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

[This is the first released version of the Lesser GPL. It also counts as the successor of the GNU Library Public License, version 2, hence the version number 2.1.]

#### Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users.

This license, the Lesser General Public License, applies to some specially designated software packages--typically libraries--of the Free Software Foundation and other authors who decide to use it. You can use it too, but we suggest you first think carefully about whether this license or the ordinary General Public License is the better strategy to use in any particular case, based on the explanations below.

When we speak of free software, we are referring to freedom of use, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish); that you receive source code or can get it if you want it; that you can change the software and use pieces of it in new free programs; and that you are informed that you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid distributors to deny you these rights or to ask you to surrender these rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library or if you modify it.

For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link other code with the library, you must provide complete object files to the recipients, so that they can relink them with the library after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with a two-step method: (1) we copyright the library, and (2) we offer you this license, which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library.

To protect each distributor, we want to make it very clear that there is no warranty for the free library. Also, if the library is modified by someone else and passed on, the recipients should know that what they have is not the original version, so that the original author's reputation will not be affected by problems that might be introduced by others.

Finally, software patents pose a constant threat to the existence of any free program. We wish to make sure that a company cannot effectively restrict the users of a free program by obtaining a restrictive license from a patent holder. Therefore, we insist that

any patent license obtained for a version of the library must be consistent with the full freedom of use specified in this license.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License. This license, the GNU Lesser General Public License, applies to certain designated libraries, and is quite different from the ordinary General Public License. We use this license for certain libraries in order to permit linking those libraries into non-free programs.

When a program is linked with a library, whether statically or using a shared library, the combination of the two is legally speaking a combined work, a derivative of the original library. The ordinary General Public License therefore permits such linking only if the entire combination fits its criteria of freedom. The Lesser General Public License permits more lax criteria for linking other code with the library.

We call this license the "Lesser" General Public License because it does Less to protect the user's freedom than the ordinary General Public License. It also provides other free software developers Less of an advantage over competing non-free programs. These disadvantages are the reason we use the ordinary General Public License for many libraries. However, the Lesser license provides advantages in certain special circumstances.

For example, on rare occasions, there may be a special need to encourage the widest possible use of a certain library, so that it becomes a de-facto standard. To achieve this, non-free programs must be allowed to use the library. A more frequent case is that a free library does the same job as widely used non-free libraries. In this case, there is little to gain by limiting the free library to free software only, so we use the Lesser General Public License.

In other cases, permission to use a particular library in non-free programs enables a greater number of people to use a large body of free software. For example, permission to use the GNU C Library in non-free programs enables many more people to use the whole GNU operating system, as well as its variant, the GNU/Linux operating system.

Although the Lesser General Public License is Less protective of the users' freedom, it does ensure that the user of a program that is linked with the Library has the freedom and the wherewithal to run that program using a modified version of the Library.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, whereas the latter must be combined with the library in order to run.

#### TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

**0.** This License Agreement applies to any software library or other program which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Lesser General Public License (also called "this License"). Each licensee is addressed as "you".

A "library" means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.

The "Library", below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A "work based on the Library" means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".)

"Source code" for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

- a) The modified work must itself be a software library.
- b) You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
- c) You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.
- d) If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful.

(For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application. Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices.

Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy.

This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.

If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a "work that uses the Library". Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.

However, linking a "work that uses the Library" with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a "work that uses the library". The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables.

When a "work that uses the Library" uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.)

Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6. As an exception to the Sections above, you may also combine or link a "work that uses the Library" with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer's own use and reverse engineering for debugging such modifications.

You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

- a) Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable "work that uses the Library", as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)
- b) Use a suitable shared library mechanism for linking with the Library. A suitable mechanism is one that (1) uses at run time a copy of the library already present on the user's computer system, rather than copying library functions into the executable, and (2) will operate properly with a modified version of the library, if the user installs one, as long as the modified version is interface-compatible with the version that the work was made with.
- c) Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.
- d) If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.
- e) Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

For an executable, the required form of the "work that uses the Library" must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the materials to be distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:

- a) Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.
- b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.

8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.

10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties with this License.

11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

13. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Lesser General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version

published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

## NO WARRANTY

15. BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

16. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

## END OF TERMS AND CONDITIONS

### How to Apply These Terms to Your New Libraries

If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change. You can do so by permitting redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License).

To apply these terms, attach the following notices to the library. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

*one line to give the library's name and an idea of what it does.*  
Copyright (C) year name of author

This library is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU Lesser General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2.1 of the License, or (at your option) any later version.

This library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU Lesser General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU Lesser General Public License along with this library; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the library, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the library 'Frob' (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.

*signature of Ty Coon, 1 April 1990*

---

Ty Coon, President of Vice

That's all there is to it!

**Configuration.dll, AuthCodeGenerator.lib, UserManager.dll, libcdkey.lib,  
XCrashReport.exe license:**

**Copyright (c) 1998-2000 University College London**

**All rights reserved.**

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, is permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:  
This product includes software developed by the Computer Science Department at University College London
4. Neither the name of the University nor of the Department may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHORS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Copyright (c) 1991 Bell Communications Research, Inc. (Bellcore)

Permission to use, copy, modify, and distribute this material for any purpose and without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice and this permission notice appear in all copies, and that the name of Bellcore not be used in advertising or publicity pertaining to this material without the specific, prior written permission of an authorized representative of Bellcore. BELLCORE MAKES NO REPRESENTATIONS ABOUT THE ACCURACY OR SUITABILITY OF THIS MATERIAL FOR ANY PURPOSE. IT IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES.



™  
The World's first certified by  
HDcctv Alliance

Premium to your **HD-CCTV**

**WEBGATE**

**WEBGATE, Daemyung Corporation Co., Ltd.**

TEL +82-31-428-9300  
sales@webgateinc.com  
cs@webgateinc.com  
www.webgateinc.com